

編所輯編堂省三

等 中

# 說概理地近最

版 訂 改



版大 堂 省 三 京東

375.9  
S214  
資料室

教科  
41  
200

42788

教科書文庫

4
290
41-1941
20000 45722

### Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

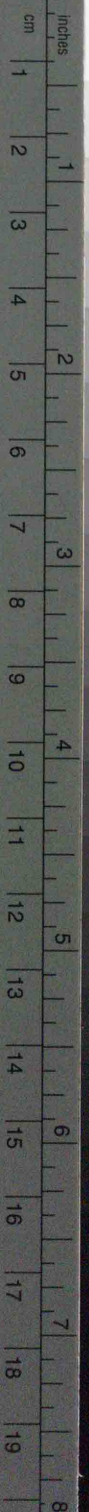


© Kodak, 2007 TM: Kodak

### Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak





日九十月二年六十和昭  
濟定檢省部文  
用科理地校學中

教科書文庫  
4  
290  
41-1941  
2000045722

編所輯編堂省三

等 中

# 說概理地近最

版訂改



広島大学図書  
2000045722  


版大 堂 省 三 京東

資料室

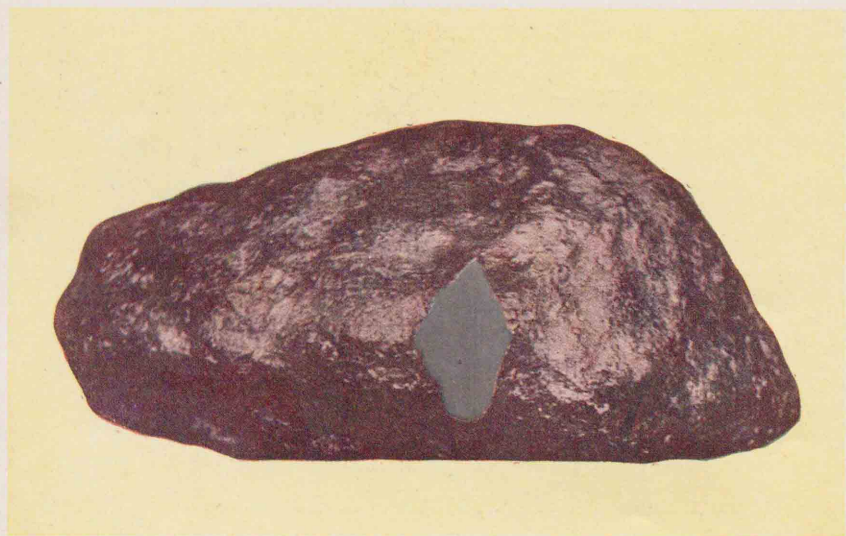
375.9  
S214

山形大学図書





太陽の火山



隕鉄



山口県立大学





太陽の火峰 太陽には普通に光つた部分(光圏)と、その周りに地球の空氣層に當る部分(彩圏)がある。この彩圏の周圍からは常に噴煙状のものが放出されてゐる。之を火峰又は噴氣峰と呼ぶ。大いさは一定してゐないが、時に四十五萬軒餘の高さに噴騰することがある。圖はそれを日食皆既の時に見た光景。

隕鐵 我が國に落下した隕石の數は少くないが、隕鐵は甚だ稀である。圖は滋賀縣栗太郡下田ノ上村で發見、落下半年不詳したもので、科學博物館の所藏に係り、左右の長さ五十軒餘、前後の長さ四十軒、重量約百七十軒に及び、本邦で發見された隕鐵の中、最大なものである。中央の一部が銀光となつてゐるのは、内部が鐵であることを示す爲に、切口を附けたものである。

附記 本邦發見の隕鐵で著名なものが三箇ある。一は明治二十七年丹波に墜落し、現に京都帝國大學で保管中のもの。一は越中で發見、落下半年不詳し、その一部は嘗て榎本子爵が流星刀に作られ、殘餘は科學博物館に所藏されてゐる。而して一は即ち本圖に掲げたものである。

### 辯言

本書は新定の教授要目に則り、中等學校の地理教科書とする爲に編纂したもので、中最近日本地理及中最近世界地理と緊密な連絡を保ち、一貫せる方針の下に、地理教授の本旨を達成せしめんとするものである。

本書の編纂に當り、意を用ひた要點は左の通りである。

一、地理概説は、教授の範圍が甚だ廣く、教授時數は割合に少いから、他學科と説明の重複を考慮して、教材を取捨し、教授時間を最も有効に利用し得るやうにした。

一、改正要目の趣旨に従ひ、自然と人文との教材を約一と二の割合に配合し、全體として過大の弊に陥らないやうにした。

一、地理教授の中でも、特に概説にあつては、數量等の比較對照を必要とする場合が多く、文字で讀ましめるよりも、圖表で示す方が理解し易



いから、グラフ・マップ等を極めて豊富に挿入した。  
一、近年世界の情勢に伴ひ、經濟地理の重要性を増大したので、特にその記述に意を用ひ、又我が國の産業統計は總て昭和十二年度以前の分を採ることにした。

一、保健上の必要から、本文及び圖表中の文字を大きくし、總て文部省告示の活字印刷規定に據ることにした。

一、全卷を通して、我が國との對照に意を用ひ、我が國土國體が眞に萬邦に優れた所以を認識せしめ、日本精神の作興に努めた。

本書に挿入した統計圖表は、中央氣象臺の調査諸官省の統計表、諸會社の報告、理科年表、國勢グラフ等の數によつて作製したものが多く、又内容の修正に關しては、當事諸賢の經驗に基く注意に負ふものである。茲に特記して感謝の意を表す。

昭和十五年十一月

編者識

目次

第一章 地球……………一

  第一節 地球の位置……………一

  第二節 地球の實體……………五

  第三節 地球の運動……………七

  第四節 地表の描寫……………一〇

第二章 陸地……………一四

  第一節 陸地の現狀……………一四

  第二節 陸地の變動……………一四

    一 内力……………一五

    二 外力……………一九

  第三節 地形……………二三

第三章 海洋……………二四



第一節 海と海水……………二四

第二節 海水の運動……………二五

第四章 氣候……………二六

第一節 大氣……………二六

第二節 降水……………二七

第三節 天氣と氣候……………二八

第五章 住民……………三五

第一節 人種と民族……………三五

第二節 言語と信仰……………四〇

第三節 人類の生活……………四二

第四節 人類の住所……………四四

第五節 自然と人生……………四八

第六節 文化……………五一

第六章 産業……………五三

第一節 農業……………五四

第二節 牧畜……………五九

第三節 林業……………六一

第四節 水産業……………六三

第五節 鑛業……………六四

第六節 工業……………六七

第七節 商業 附觀光業……………七三

第七章 交通……………七七

第一節 陸運……………七七

第二節 水運……………八〇

第三節 空運……………八四

第四節 通信……………八五

第八章 政治……………八八

第一節 國家の組織……………八八



第二章 國家の版圖…………… 九

第三節 國勢…………… 九

第四節 國際關係…………… 九

第九章 世界に於ける我が國の地位…………… 九

第一節 我が國土…………… 九

第二節 我が國民…………… 一〇〇

第三節 我が發展…………… 一〇三

目次終



中等最近地理概説 改訂版

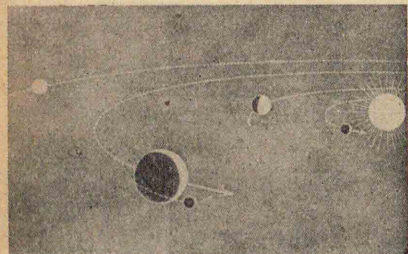
第一章 地球

第一節 地球の位置

星 大空に輝いてゐる無数の星の中で、我等と最も關係の深いのは、太陽と月であるが、北斗七星や北極星も、方位やその他のこと



望遠鏡で見えた銀河の一部



恆星・遊星・衛星の關係を示す

で親しみが有り、又宵の明星(金星)の光も美しいが、带状をなす銀河も、秋天の夜を飾る偉觀である。此等の星には、恆星・太陽・北極星等遊星(明星・地球等)・衛星(月)等の別がある。



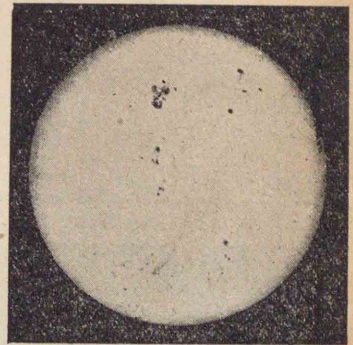


で景光ため眺を空の方西に刻夕の時或 眺の空天  
るゐてい輝くし美が星のく多め始を星木・星金・月



のこで星彗ーレハたれは現に月五年三十四治明 星 彗  
るえ見に目の々我てれは現び再とるぎ過餘年七十七は星

公報、自轉

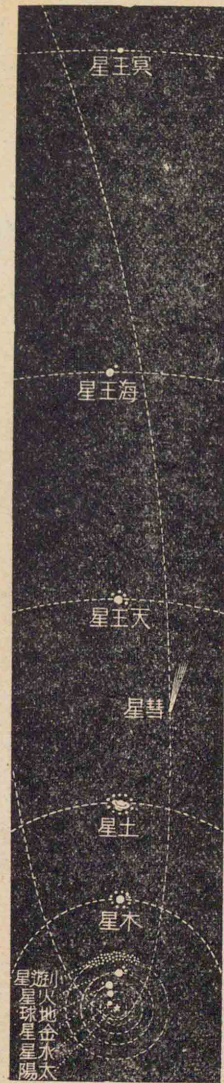


太陽の表面に黒い点

太陽と月 太陽は常に強烈な光と熱とを放ち、地球上に森羅萬象の變化を起し、又生物に生活の源泉を與へる。その表面は燦然と輝いてゐるが、處々に黒點がある。月



望遠鏡で見たまの月表面



太陽系の九大遊星と、一群の小天体

は表面に多くの噴火口の如きものがあり、空気も水もない暗體で、生物は居ないらしい。月は略、同一の時間に、一自轉と一公轉とをするから、地球に對しては、常に同一の半面を向けてゐる。

太陽系 太陽を中心として、水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星



星	直徑比較	衛星	摘 要
太陽	11000	0	光が地球に達するに八分餘かゝる
水星	0.39	0	太陽に近い爲肉眼では見出し難い
金星	0.97	0	明星と呼ばれ曉方と夕方に現れる
地球	1.00	1	太陽との平均距離は一億五千萬軒
火星	0.53	2	海陸もあり地球と状態が似てゐる
木星	11.06	9	遊星中で最も大きく光も最も強い
土星	9.50	10	釜の鏝に似た輪體が附屬してゐる
天王星	4.33	4	肉眼で見えるのは極めて稀である
海王星	4.75	1	一八四六年ドイツで發見された星
冥王星	約1.00	?	一九三〇年米國で發見された新星
小遊星			一千箇に餘る小さい星の群である
彗星			光る尾を曳き俗に掃星といはれる
流星			落下の際空氣と摩擦して光を出す

るく輝いてゐる。之を地球から見ると、月の位置によつて、三日月ともなり、又満月ともなり、見る人毎に種々の感じを懐かせる。古來之

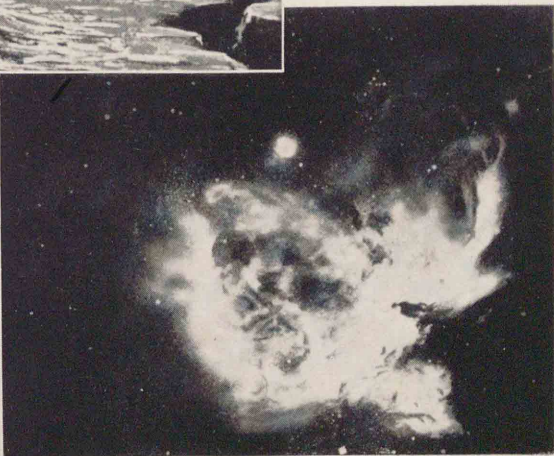
遊星がある。遊星には衛星を伴ふものが多い。遊星衛星は、略同一の平面上にあつて、常に一定の軌道を行つてゐるが、この他に多くは軌道の定らない彗星、流星がある。此等の星の一群を總稱して太陽系といふ。

月の盈虚 月は太陽の光を反射して、明



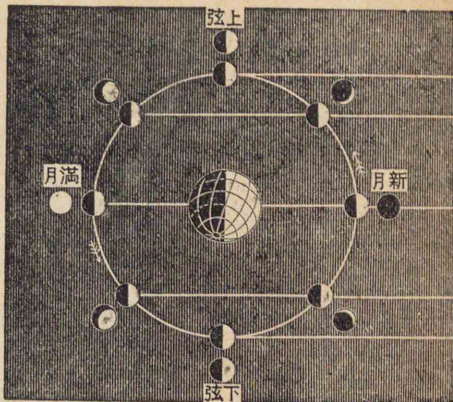
月から見た地球 地球から月を見たのと同じく輝いてゐるが大きさは約四倍に達し且天空は常に暗黒で星が現はれてゐる

日食 日食の時に映した天空の寫眞で附圖は日食皆既の時の太陽を示したものを

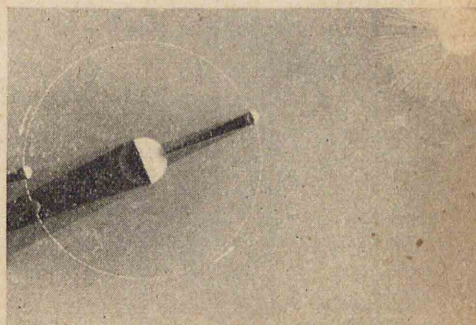


オリオン大星雲 俗に三ツ星と呼ばれる星、殆ど同大のオリオン庭といひ大星雲は此處にあつて無月の時は肉眼でも淡く見える





か球地は部い白の圓の側外の圖  
るあで化變の面光の月ため眺ら



日を世の榮枯盛衰に比べ、月を  
 や詠じた詩歌が甚だ多い。  
 食 太陽・月・地球の三天體  
 が、一直線に並ぶことがある。  
 満月の際、地球の影が月を被  
 ふのを月食といひ、新月の際  
 月が太陽を被ふのを日食と  
 圖たし示を理る起の食月や食日  
 いふ。

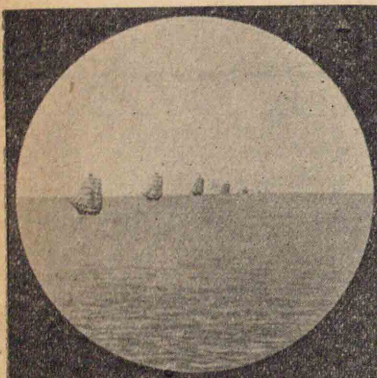
食には皆既  
 蝕部分蝕の  
 別があり日  
 食には稀に  
 金環蝕の起  
 ることがあ  
 る

### 太陽系の成因

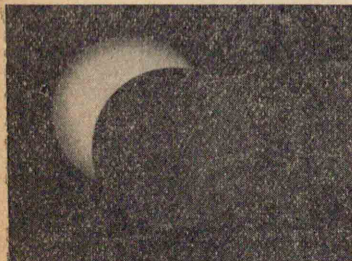
太陽系は、初め星雲のやうなもの  
 であつたが、回轉の爲にその赤道部が膨れて、周邊  
 に多くの星塊即ち遊星を生じ、遊星の周邊にも、同  
 様に衛星を生じたもので、中央の大塊は太陽であ  
 るといふ説がある、之を星雲説といふ、併し反對の  
 新説もあつて、その成因は尙未解の謎である。



例一の雲星状渦



え見が頭橋は船の方遠  
るえ見が體全は船い近



影の球地たつ映に面月

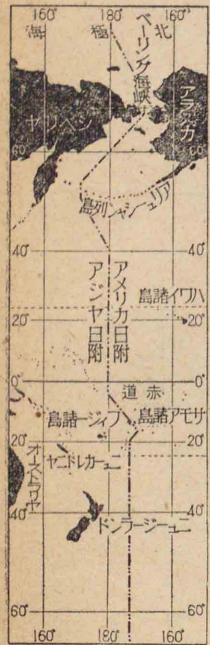
づ橋頭から現れて次第に船體が  
 見え、月食の時に月面に映る地  
 球の影が、常に圓弧である等は、皆  
 その證である。  
 緯度・經度 地軸の中點に直交  
 する一大平面を假想し、之が地表

宇宙 宇宙は、實に想像も及ばぬ廣大無邊な空間で、その中に無  
 数の星群を含み、太陽系はその星群の一で、我が地球は、太陽系中の  
 眇たる一遊星に過ぎない。

### 第二節 地球の實體

地球の形狀 昔は洋の東西を問はず、世界は平坦の如く考へら  
 れてゐたが、學術が進み、精密な測定が行はれるやうになつて、地球  
 の形が、扁平橢圓體であることが明かになつた。入港する船は、先





寫眞を機械を置くとき星の位置を空に寫す

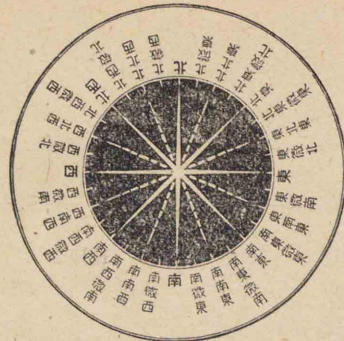
石で方位を測るが、磁針は各地必ずしも正しい南北を指すものではなく、東京では約五度西に偏してゐる。

**第三節 地球の運動**

**自轉と公轉** 地球は西から東に向つて、一日に一自轉をなし、一年間に一公轉をなす。その結果、晝夜及び四季の別を生ずる。

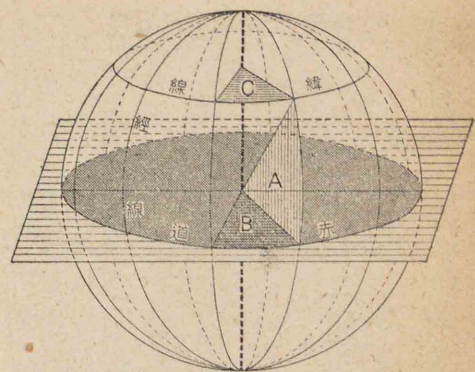
**標準時** 地球は自轉の爲に、東から太陽に照らされ、次第に西に移るから、經度が異なる毎に、自ら地方時も異なる。之では社會生活の上には不便が多いから、或地方時を採つて、一定區域に於ける標準時とする。

**日附變更線** 横濱から北米航路で東に向へば、經度十五度を進む毎に、時計を一



二十三方位の呼び方

極を北とし、南極を南とするから、方位は經緯線の方向と一致する。普通は磁

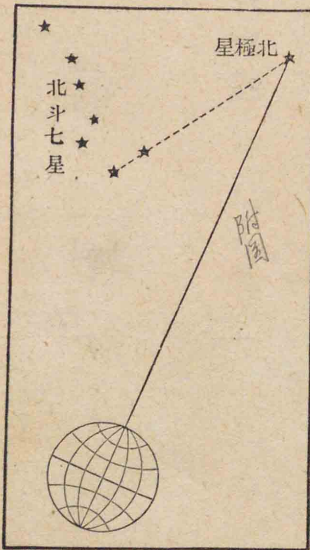


緯度は角A、經度は角Bと角C

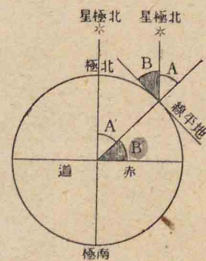
と切合ふ大圈を赤道といふ。赤道に平行して、地表を東西に取巻く線は緯線で、兩極を通過し、緯線に直交する線は經線である。赤道面と緯線との間の角を緯度といふ。經線と經線との間の角を經度といふ。

**緯度・經度の測定** 某地の緯度は、地平線上に於ける北極星の高さに等しく、某地の經度は、クロノメーターの示す時刻と、某地の地方時との時差によつて求める。

緯度測定は、北極星の高度を測る。經度測定は、地方時と標準時との差を測る。



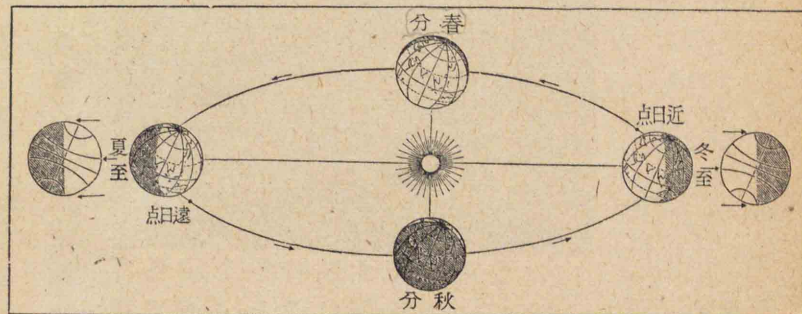
北極星と地球の軸及び北極星との關係



緯度測定は、北極星の高度を測る。經度測定は、地方時と標準時との差を測る。



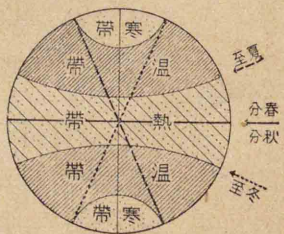
マゼランの遠征隊が本國に歸つた時はスペインで一年九月七日であつたが航海日誌は九月六日になつてゐたその頃には之を日誌の誤記と考へてゐた



春・分・夏至・秋・分・冬至・至・太陽の光の位置が移るに従ひ、太陽から受ける光線の方向が違つて来る。春分(三月二十一日頃)には、太陽が赤道を直射して、晝夜を平分し、夏(六月二十一日頃)には、太陽が北回歸線上を直射し、北半球は夏となつて晝が長く、北極では晝のみが續く。秋分(九月二十三日頃)には、再び赤道を直射して、晝夜を平分し、冬(十二月二十三日頃)には、太陽が南回歸線上を直射し、北半球は冬となつて晝が長く、北極では夜のみが續く。之から太陽は再び北に移つて四季を繰返す。地球上には、太陽から受ける光線の強弱により、熱帯・温帯・寒帯等の氣候帯を生ずる。

時間進ませる必要がある斯くて三百六十度地球一周を進めば、二十四時間進ませることとなつて、日数が一日多くなり、反對に西に向へば、日数が一日少くなるから、この一日を調節する爲、太平洋中に日附變更線を設け、この線を東に越せば同じ日附を繰返し、西に越せば一日を飛ばして數へることにしてゐる。

**四季の變化** 地軸は軌道面に對し、凡そ六十度半の角度を保つてゐるから、公轉してその位置が移るに従ひ、太陽から受ける光線の方向が違つて来る。春分(三月二十一日頃)には、太陽が赤道を直射して、晝夜を平分し、夏(六月二十一日頃)には、太陽が北回歸線上を直射し、北半球は夏となつて晝が長く、北極では晝のみが續く。秋分(九月二十三日頃)には、再び赤道を直射して、晝夜を平分し、冬(十二月二十三日頃)には、太陽が南回歸線上を直射し、北半球は冬となつて晝が長く、北極では夜のみが續く。之から太陽は再び北に移つて四季を繰返す。地球上には、太陽から受ける光線の強弱により、熱帯・温帯・寒帯等の氣候帯を生ずる。



地表面に於ける五帯

近日點では公轉速度が大であるから太陽日が長く遠日點では之に反して太陽日が短い

道上を直射して、晝夜を平分し、冬至(十二月二十三日頃)には南回歸線上を直射し、北半球は冬となつて晝が長く、北極では夜のみが續く。之から太陽は再び北に移つて四季を繰返す。地球上には、太陽から受ける光線の強弱により、熱帯・温帯・寒帯等の氣候帯を生ずる。

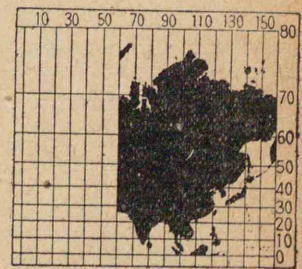
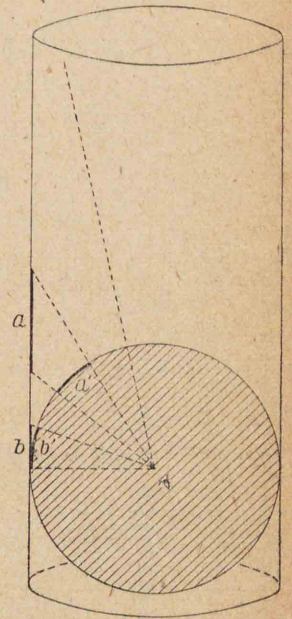
**曆** 地球は自轉の外、公轉によつて位置を變へるから、太陽の南中から次の南中までは、一自轉の時間よりも稍、長くなる。之を太陽日といひ、一自轉間を恆星日といふ。太陽日の長さは、軌道上に於ける地球の位置によつて違ふから、之を平均したもの平均太陽日といひ、我々の普通に用ふる一日で、即ち二十四時間である。

**平年と閏年** 地球の一年は、三百六十五日五時四十八分四十六秒であるが、曆では便宜上端數を省き、三百六十五日を一年とし、之を平年とする。又四年毎に、端數から生ずる一日を加へて、三百六十六日の一年を設け、之を



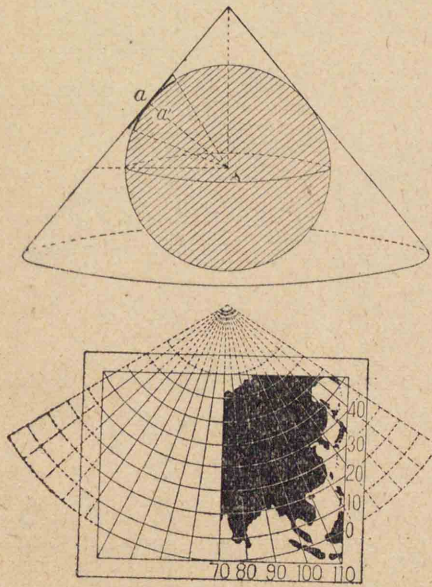






圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從  
圓柱線緯北が從

方位が正しく、航海に都合がよいので、海圖に使用される。地球を圓錐形の紙で包み、投影したものを圓錐圖法といひ、一部分を比較的

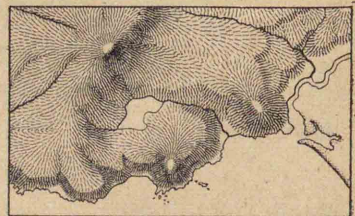


圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的  
圓錐圖法といひ、一部分を比較的

地圖の製り方—地圖を

地圖には一  
般に縮尺及  
び方位等を  
記入するも  
のである

描くには、先づ經緯線の  
投影を終り三角測量に  
よつて地物の位置を定  
め、水準測量によつて海  
拔高度を測定し、更に海  
岸線山川都邑等を夫々  
正確な位置に記入するのである。近年寫眞測量により、迅速に地圖  
を作る方法もある。又土地の高低や傾斜の緩急等を表すには、普通  
に等高線(曲線式)毛羽(暈滂式)ボカシ等を用ひるが、補助として此等  
を併用し、又は彩段式にすることもある。

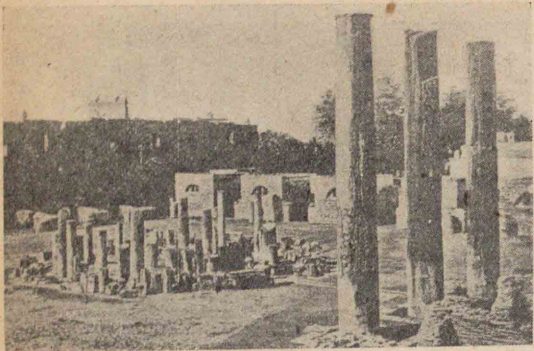


上羽の地形を  
形につよ  
高等を  
高を示  
線とし  
毛と

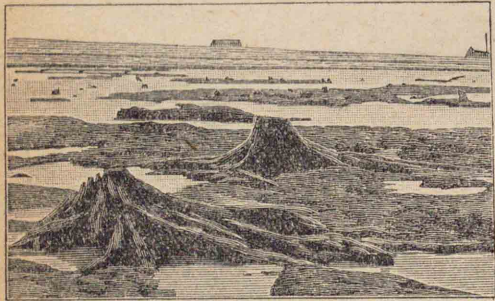
地圖の種類 主として陸地の状態を圖示したものを地形圖と

いひ、地理學の基礎をなすものである。又専ら航海に必要な海洋の  
有様を表した海圖もある。特殊なものには地質圖、産業圖等があり、  
又航空の發達に伴ひ、之に必要な航空圖も製作された。



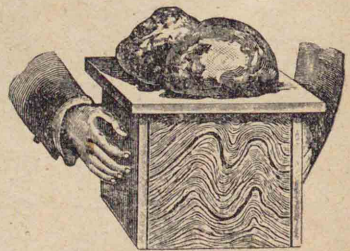


殿スピラセルにあに岸海のヤリタイ  
す返線をと降沈と起隆で址遺の堂

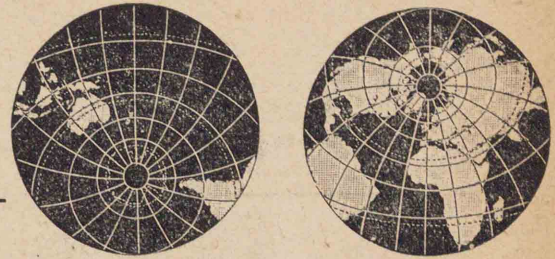


の林森る殘に海近のシリギイ  
據で、森林の址が海底に残つてゐるの、土地が降下した爲である。

て、少しも止む時がない。この變動を起す力を、内  
力と外力とに分ける。  
造山作用 地球は放熱によつて、次第に縮小  
するが、地殻は固體であるから、横に壓合つて褶  
曲を生ずる、之を造山作用といふ。



型模たし示を用作曲褶



るあで球半水は左で球半陸は右

## 第二章 陸 地

### 第一節 陸地の現状

水陸の分布 地球の表面は、陸と水とに分れ、その割合は陸  
一に對し、水は約二・七である。水陸の分布は極めて不均であ  
るから、陸の大部分を含む陸半球と、全面殆ど水である水半球  
とに分けられる。

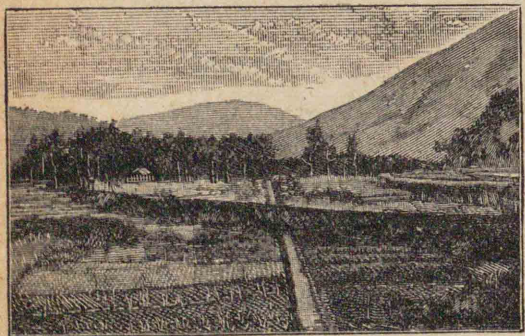
大陸と島 陸地は大陸と島とに分れ、島には陸島、日本イギリ  
ス等と洋島、マリアナ諸島等とある。前者は大陸の一部が、侵蝕又  
は陥没等によつて分離したもので、洋島は火山島や珊瑚島の如く、  
大陸と關係なく成立したものである。

### 第二節 陸地の變動

山河は永遠に變化のないやうに見えるが、實際は絶えず變動し



地震 地盤の一部に、急激な變動が起り、その震動を四方に傳へるのを地震といふ。地震には火山地震、陥落地震、斷層地震等がある。我が國に起る大地震は、何れも斷層地震で、その慘害が著しい。

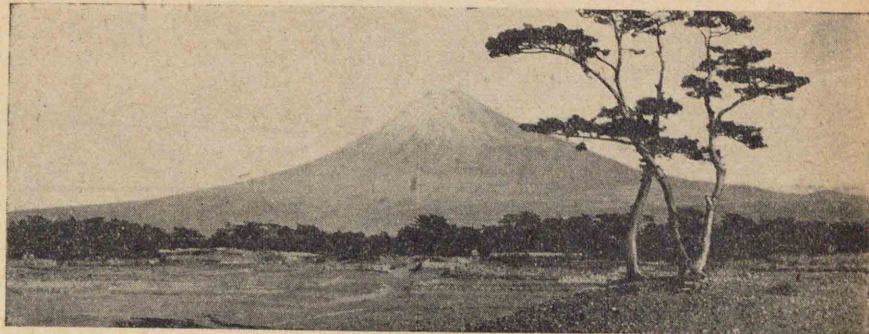


層斷谷尾根縣阜岐た來出に震地尾濃



に特效がある。温泉の時を定めて噴出するものを間歇温泉といふ。

複式火山の舊火口壁を外輪山、その中の新火山を火口丘といひ、その間の低地を火口原といふ。火口原の水が、外輪山を破つて流出する處を火口瀬と呼ぶ。火山は活動を休止した後、種々の瓦斯體を噴出することがある。之を噴氣孔といふ。温泉も火山地方に多い。温泉はその含有成分により、療養



るあが野裾い廣に麓し斜急は部上しなを體錐圓は山士富

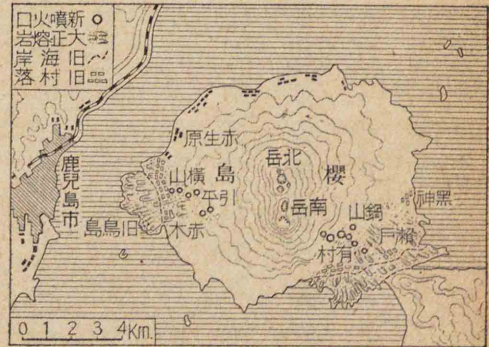


面斷像想の山火狀塊は左・山火狀層は右

火山 地球の内部から、地殻の弱い處を通じて、熔岩や水蒸氣を噴出することがある。之を火山作用といひ、噴出物の爲に出來た山を火山といふ。

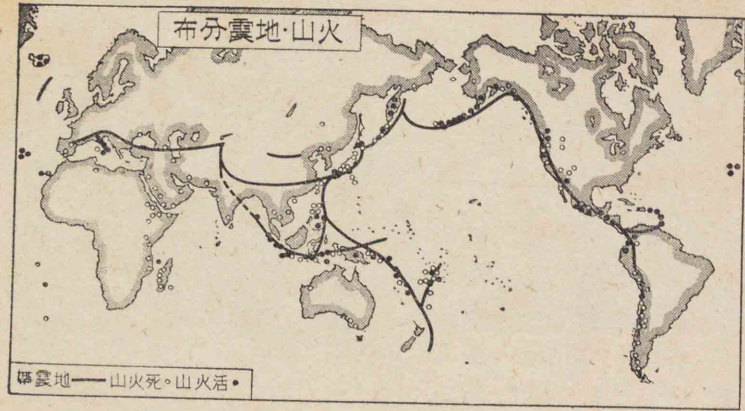
火山の噴出物には、水蒸氣、熔岩、泥流等の外、火山弾、火山礫、火山砂、火山灰、火山毛等がある。此等の噴出物が、相重つて生じたものを層狀火山（富士山式といひ、略、一回の噴出により、熔岩のみを堆積して出來たものを塊狀火山といふ）。

複式火山 舊火口の中に、新火山を噴出したものを複式火山といひ、箱根山、阿蘇山等は、その好例である。



流岩熔たし出流に火噴の島櫻

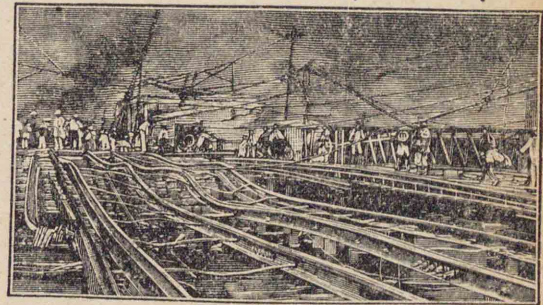




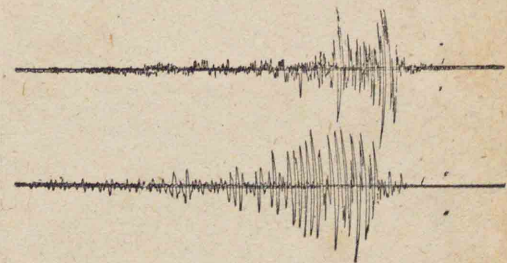
地震は弱い初期微動に始つて主要動となり、次第に終期動に移つて、もとの平靜にかへるものである。その震動は、上下動と水平

動とに分れ、震源附近では上下動が最も強く、之から遠ざかると水平動のみとなる。この震動を測る器械を地震計といひ、振動を感じない不動點を作り、之に指針を附け、震動する物體を測る装置である。

地震の注意 我が國の如き地震の多い國では、耐震家屋の

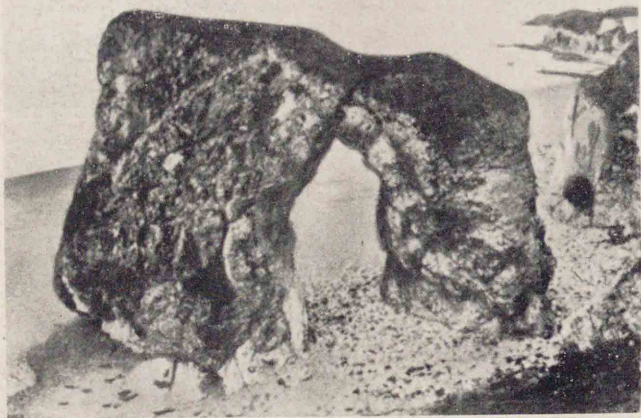
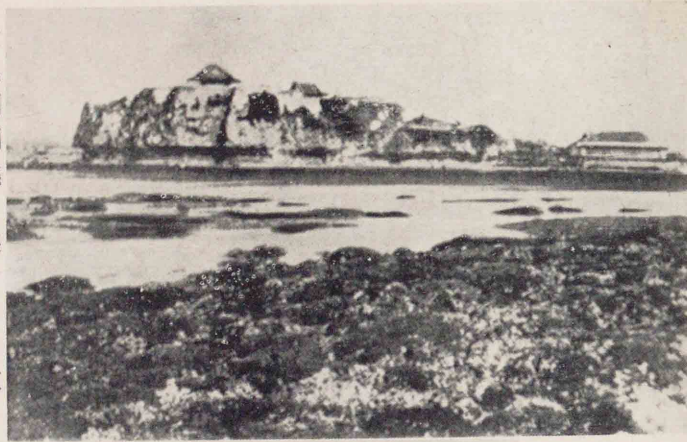


(京東)條軌道鐵たし曲屈際の震地東關



たし録記が計震地の臺仙を震地東關  
るあで倍五・三約の圖本は動實でのも

隆起珊瑚礁 海中に出來た珊瑚礁が次第に隆起して今は高い岡をなし此處に神社がある(琉球の波上部)

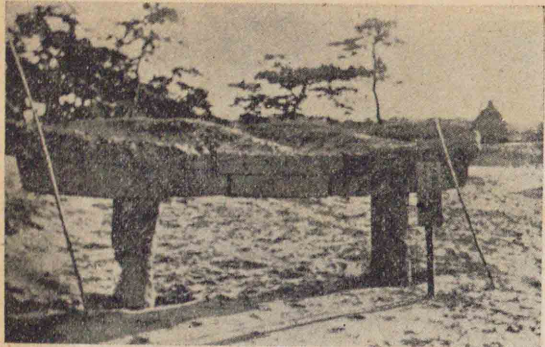


水面上の蝕痕 海岸に洞門や洞穴が並び嘗ては海水の侵蝕を受けた土地であることを示す(アイルランド)

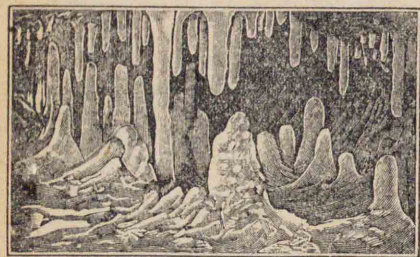
峡灣 嘗て水河の爲に鑿られた深谷が土地の下降により其處に海水を満たして峡灣を造る(ノルウェー)







砂丘に埋められた福岡県海岸の鳥居



鐘乳石・石筍の多い石灰洞

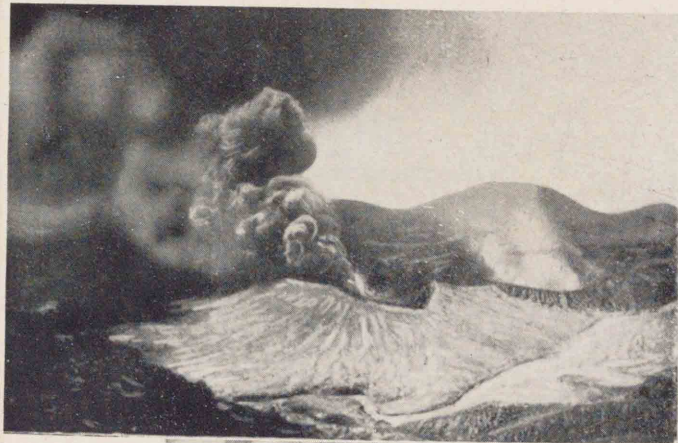
て雲となり、雨雪となつて地上に降る。水は斯く循環する間に、氣體・液體・固體の變態をなし、地表に器械的破壊と、化學的(溶解)の二作用を働かし、地形に著しい變化を與へる。

**地下水** 地下水は種々の岩石を溶解し、地下に石灰洞と呼ぶ空洞を作ることが

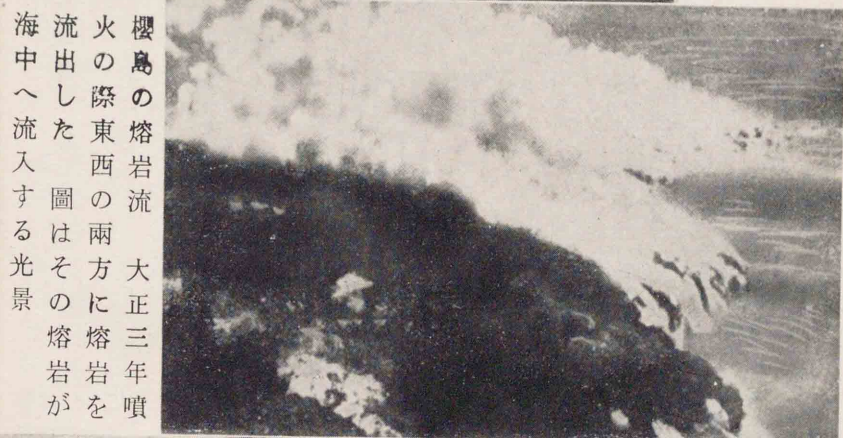
**大氣の作用** 大氣は溫度の變化や、風雨の作用により、絶えず岩石を分解する、之を風化といふ。又大氣は、風となつて砂を飛ばし、海岸や沙漠に砂丘を作ることがある。

### 二 外 力

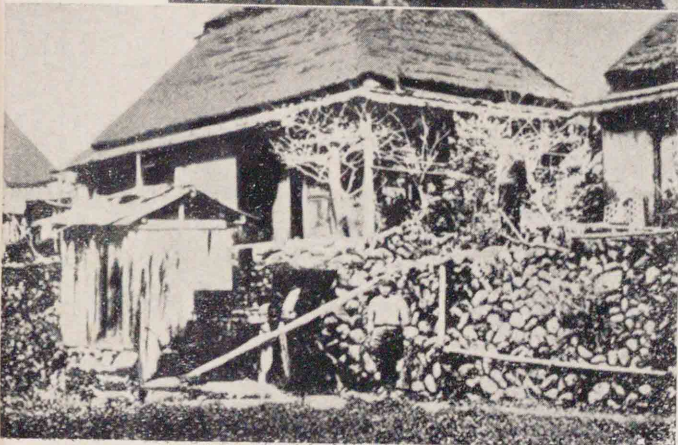
必要がある。又地震に際しては、出入口を開き、室内の火元に注意し、落下する瓦や石垣等にも心を注いで、廣場に避難するのが安全である。



阿蘇山 火口丘が五つある之を阿蘇五岳といひその中の中岳は今も噴煙してゐる



櫻島の熔岩流 大正三年噴火の際東西の兩方に熔岩を流出した 圖はその熔岩が海中へ流入する光景

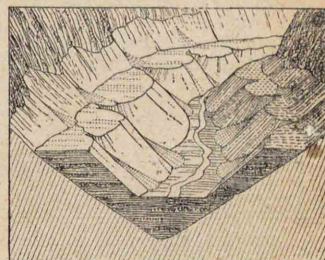


根尾谷斷層の現狀 石垣を施したのは地震當時の斷層崖で傍の小屋は斷層崖から流出する泉流を利用した水車小屋である





和歌山縣北山川に於る八丁の峽谷



河岸段丘の模範圖



黒川部下流の扇状地

井の源となつて、農牧を發達させる。

ある。又泉として湧出したものは、飲料・灌漑等に使用せられ、尙サハラや濠洲の乾燥地では、泉地や鑿

處に扇状地が發達し、河口には運搬物を堆積して、三角洲を作ることがある。  
海水は波によつて海岸を崩し、斷崖洞窟等の勝景を作り、又その砂礫を運搬して、砂嘴瀉及び陸繋島を生ずる。



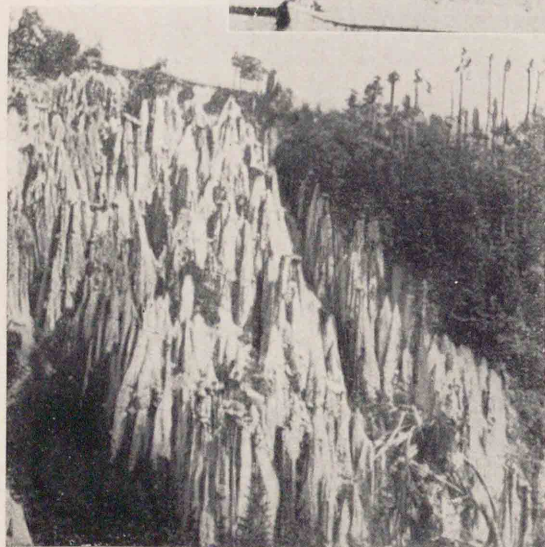
男鹿半島の陸繋島

雨水は地盤を侵蝕して、時に耶馬溪、妙義山の如き奇景を作る。河水の上流・中流では、土地を侵蝕して往々峽谷・瀑布・段丘等を作り、山地から急に平地に出る河は、其

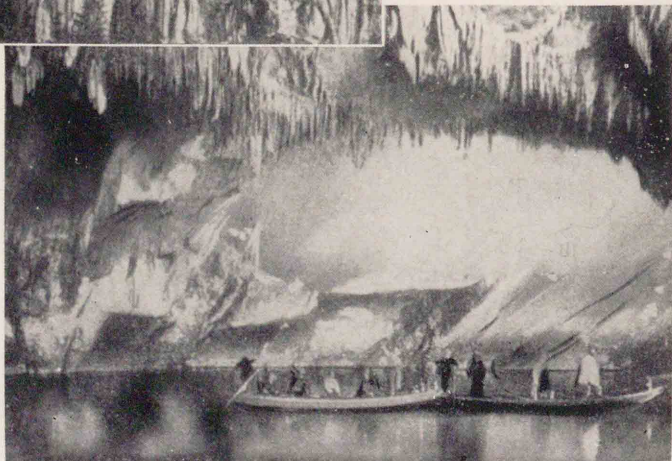
北支那の黄土層の厚さは處により三十米にも達し、その侵蝕された崖側に穴を穿つて穴居生活を営む者もある。



土柱の群立。岩塊の下部だけが雨水の侵蝕を免れて圓の如き土柱を造る(オーストリアのチロル)。

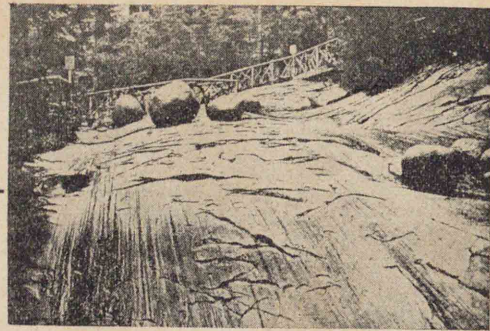


石灰洞(ベルギー)洞内には鐘乳石、石筍、石柱等が出來て、美觀を呈し、時には地下湖、地下河等の出來ることもある。

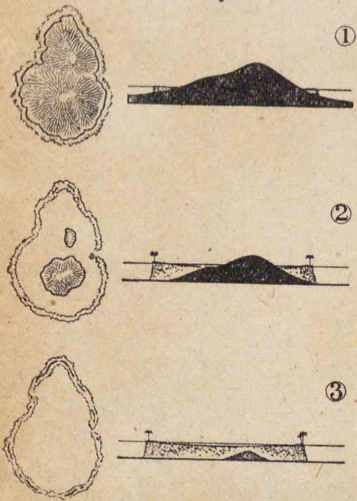




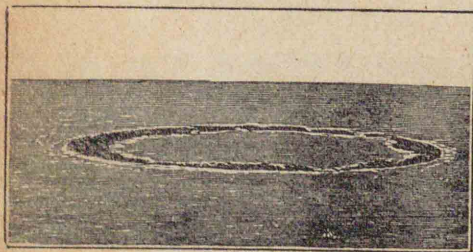
U字谷に海  
水が侵入す  
れば峽灣を  
作る



の大部分  
は、多孔蟲  
の遺骸が、  
古く堆積  
したもの  
である。



①の珊瑚の  
②の堡礁の  
③の環礁の  
沈没が珊瑚  
が珊瑚の出  
降りなると  
すばれに更  
ふいとる



南洋群島の珊瑚環礁

スイスの遺跡の河  
の跡で擦る  
の痕と堆石  
の方石が見  
にあがえる  
氷る

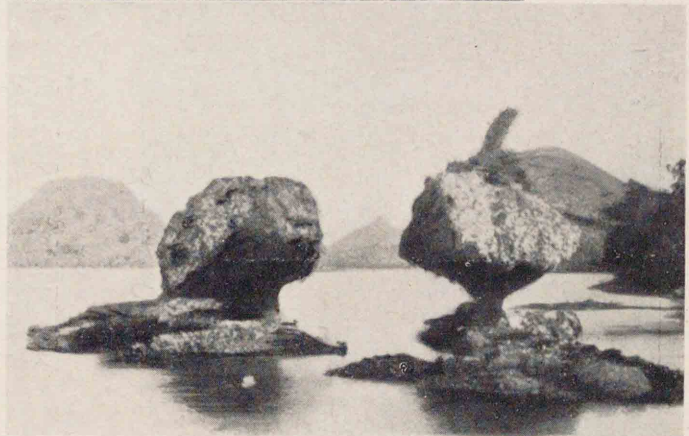
氷雪も地盤を削るが、その顯著なのは氷河でU字形の深谷を作ることがある。之に水を湛へ、又は氷河の堆石が、水を堰止めて出来た湖水が氷河湖である。

**生物の作用** 植物は主として土壤を作り、又太古の植物が、石炭となつて地盤をなすこともある。下等動物にも、大きな結果を残すものがある。珊瑚蟲は温暖な浅海に棲みて、裾礁・堡礁・環礁等の珊瑚礁を作り、又各地から産する石灰岩



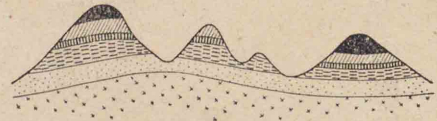
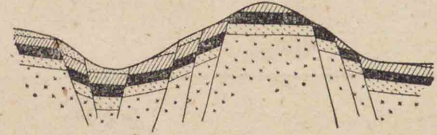
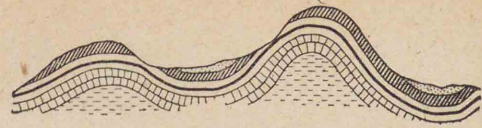
氷河 徐々に山谷を流下し  
その移動に當り絶大な力で  
著しく地盤を削磨する(スイ  
ス)

海蝕作用 浪に洗はれる部  
分は著しく崩壊されて圖の  
やうな奇景を造る(ニュージ  
ーランド)



珊瑚礁 各種の珊瑚蟲によ  
つて造られた礁で色も形も  
頗る美しい(濠洲大陸東岸の  
堡礁)



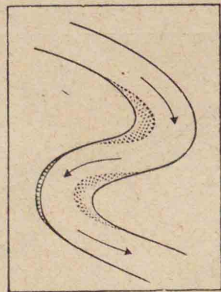


普通に此處を流れる川が山脈と平行するのを縦谷といひ、山脈を横切るのを横谷といふ。又平野を曲流蛇行する河の兩岸には、舊時の河道が、三日月湖(河跡湖)となつて残ることが多い。



侵蝕等の作用により、地形を變ずる場合が多い。廣い低地を平野と呼び、その多くは土砂の堆積、海底の隆起等によつて出來たものであるが、土地が侵蝕されて出來た準平原もある。平原の特に高いのを臺地(高原)といひ、四邊に高地を繞らしたものを盆地といふ。

谷は褶曲、斷層又は侵蝕等によつて出來たもので、川は

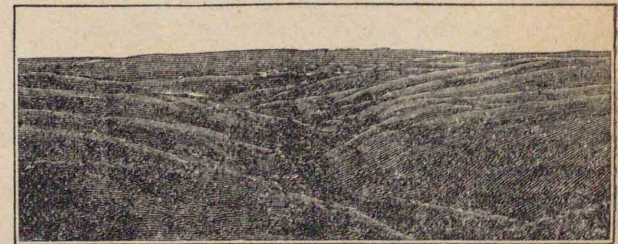
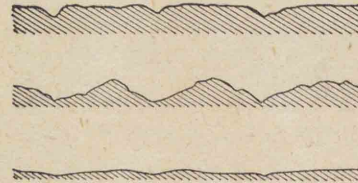


河の曲屈道理

### 第三節 地形

地形の輪廻 土地侵蝕の初期には、武蔵野臺地の如く、谷の浅い波狀起伏をなしてゐる、之を幼年期の地形といふ。この土地が一層隆起すれば、谷は深く山は峨々として聳え、日本アルプスの如き雄大な地貌を呈する、之を壯年期の地形といふ。更に侵蝕が加はれば、山頂は次第に削られ、阿武隈山地の如き高原地貌となす、之を老年期の地形といふ。斯る變化の系統を地形の輪廻といひ、現在の地形は、幾回も輪廻を繰返して來た結果である。

各種の地形 山岳は成因により、褶曲山、斷層山、侵蝕山、堆積山等に分れるが、褶曲山、堆積山等も、斷層侵



起伏の極めて緩慢な幼年期の地形を示す



日本海溝の北部に八五  
一四米、南  
部に九五三  
五米の深所  
がある

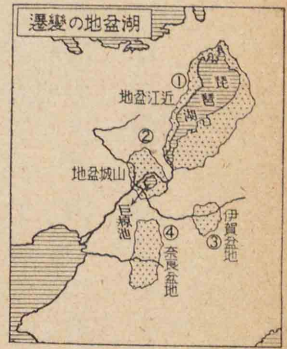
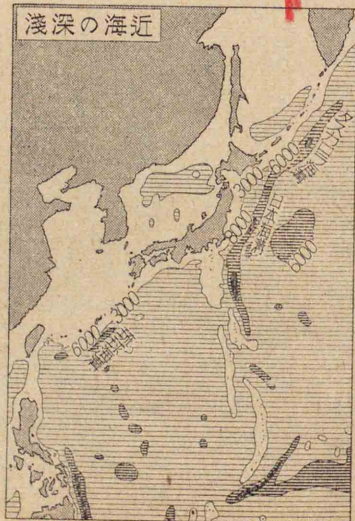
支海がある。海岸に近い處は、多く陸棚と呼ばれる浅海をなし、深さ約二百米の邊から急に傾斜を増して、深海に移るのが普通である。深海の中には海溝又は海淵等と呼ばれ、特別に深い處がある。

海水の性質 海水は鹽化ナトリウム(食鹽)を始め、種々の鹽類を含むから、その比重は一〇二六である。

海面の水溫は、緯度によつて異なるが、陸地の如く、烈しい變化はなく、殊に深海は常に寒冷で、到る處殆ど變化がない。

### 第二節 海水の運動

波浪 波浪は風によつて起る水面の運動で、恰も水が前進するやうに見えるが、實際は運動の形を傳へるのみである。併し浅海で



湖は成因上、斷層湖、海跡湖、湖火、河口湖、火口原湖等に分れ、その多くは風景がよく、發電灌漑交通等の便を與へる。盆地には、湖水が乾涸して出來たものが少くない。

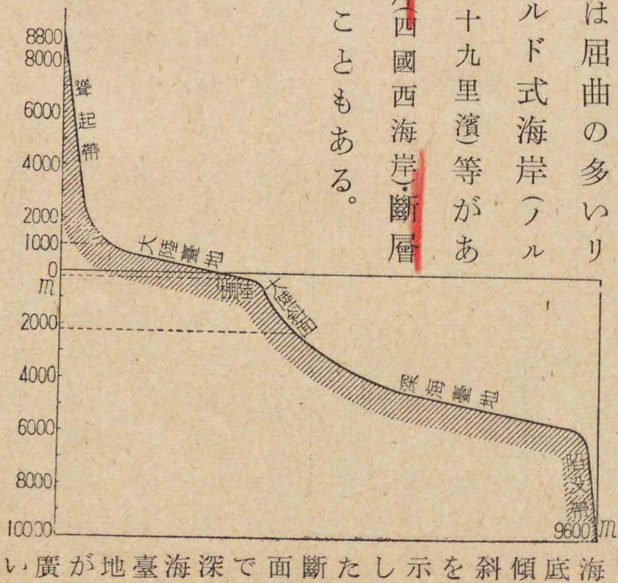
海岸には屈曲の多いリ

ヤス式海岸(志摩半島海岸)、フィヨルド式海岸(フルウエー海岸)や、單調な砂濱海岸(九十九里濱)等がある。又隆起海岸(東京灣岸)、沈降海岸(西國西海岸)、斷層海岸(鹿兒島灣岸)等の名を用ひることもある。

## 第三章 海 洋

### 第一節 海と海水

海の形状 海は太平洋、大西洋、印度の三大洋に分れ、更に多くの



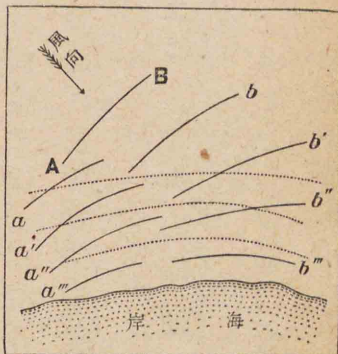
海底傾斜を示した断面で深海臺地が廣い



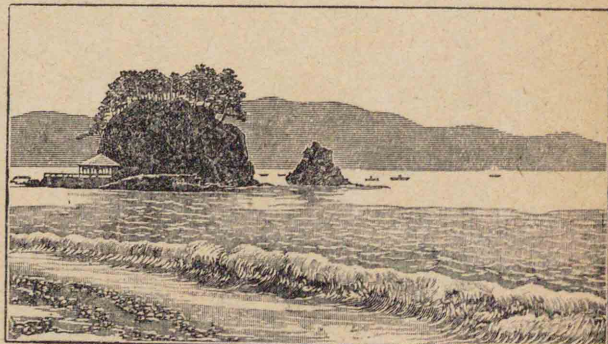
主 要 の 海 流

太平洋	暖流	赤道流	日本海流
太平洋	寒流	千島海流	ペルー海流
大西洋	暖流	赤道流	メキシコ湾流
大西洋	寒流	ラブラドル海流	
印度洋	暖流	マダガスカル海流	
日本近海	暖流	日本海流	対馬海流
日本近海	寒流	千島海流	樺太海流

は波の下部が運動を妨げられ、波頭は前方に傾いて岸に打上げる、之を磯浪といひ、風



が進行の部Bは波のABと(a'''—b''')浪磯に爲い早す示をるせ寄打てし

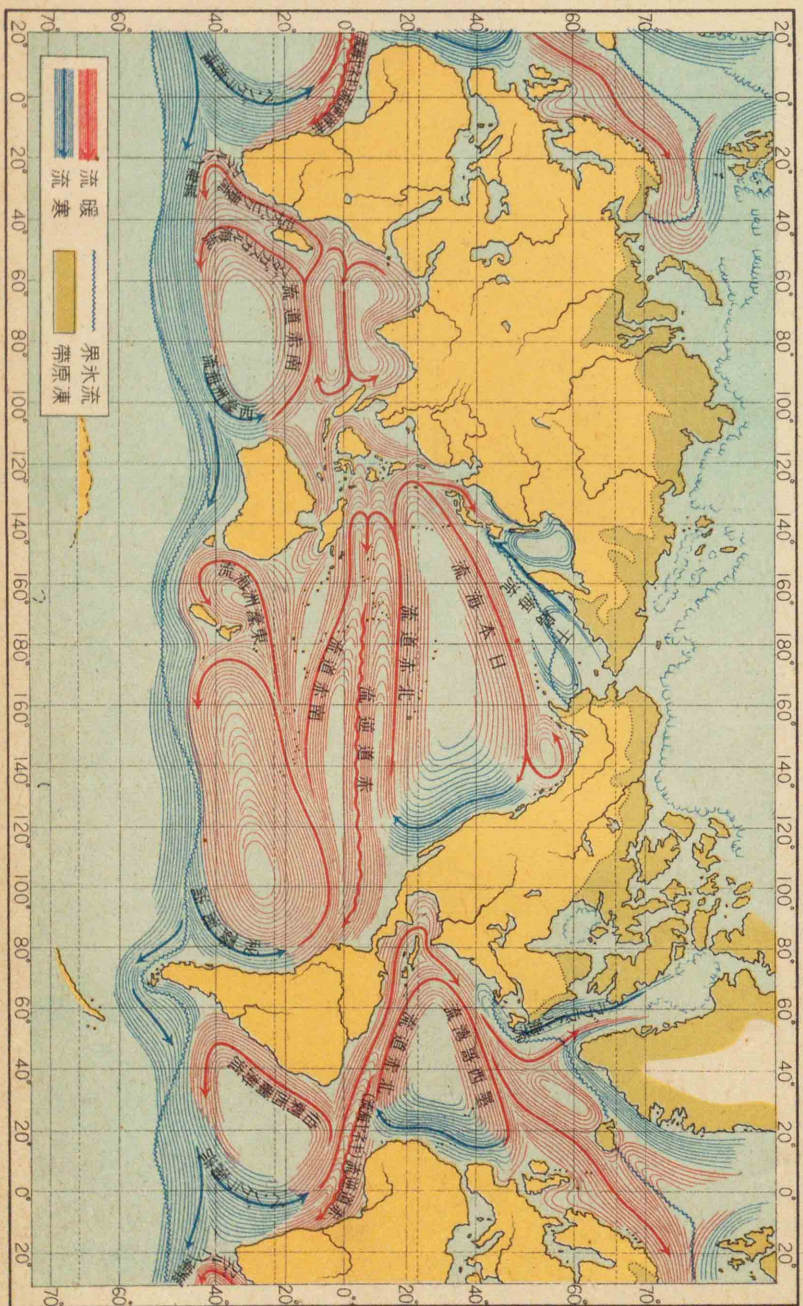


静岡縣静浦の海岸に於ける浪磯の光景

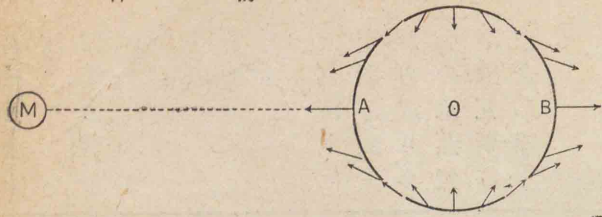
向の如何によらず、海岸に對して直角に打寄せるものである。火山破裂や地震によつて、不時に起る大浪を津浪といひ、海岸地方に、非常な惨害を及ぼすことがある。

海流 海流は主として一定の方向に吹く風によつて起るものであるが、陸地の排列や、

世界海流圖

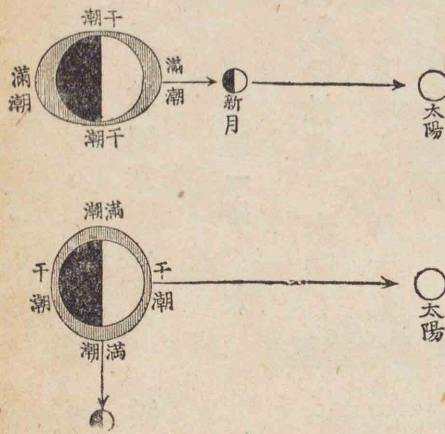






潮汐干満差  
の大きなは  
有明海の六  
米、仁川の十  
米である

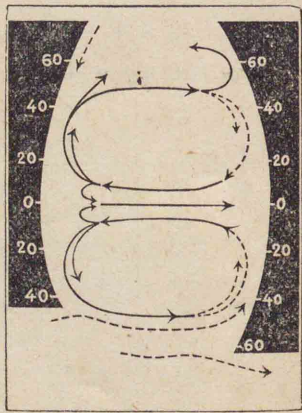
地球自轉の影響を受けて、流路を變ずる。海流には暖流と寒流との別があり、氣候や生物分布に、著しい影響を及ぼすものである。



地球自轉の影響を受けて、流路を變ずる。海流には暖流と寒流との別があり、氣候や生物分布に、著しい影響を及ぼすものである。

大潮と小潮の起る理を示す

新月満月の時は、月と太陽の潮汐が重なるから、干満の差が著しく、之を大潮といひ、上弦下弦の頃は、兩者の力が互に減殺して、干満共に著しくない、之を小潮といふ。狭い海峡では、潮汐の干満に際し、激しい流れを起すことがある、之を潮流といふ。又喇叭状に開い



太平洋の海流 (暖流は線、寒流は点線)



海嘯は錢塘江アマゾン河等に著しい

大氣は主に窒素と酸素から成り、多少の水蒸氣、炭酸瓦斯等を含んでゐる

た河口では、満ち來る潮水が河水と激し、海嘯の現象を起すことがある。

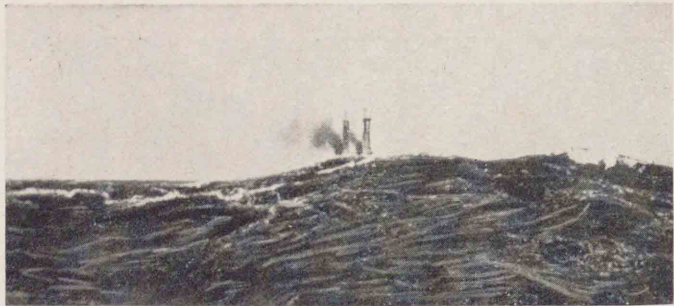
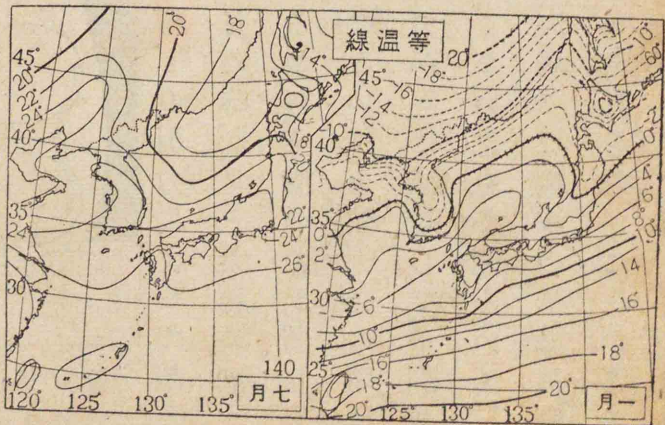
### 第四章 氣 候

#### 第一節 大 氣

大氣の性質 海陸を包んで、地球の最外部をなすものは大氣である。大氣層の厚さは、約四百軒といはれるが、風・雨・雲等の如き天氣現象の起るのは、地上から僅に十數軒の間である。

氣温は主として、太陽熱に温められた

水陸の表面から受けるので、緯度又は海拔により異なつてゐるが、風の方向・山脈の位置・海流の關係等によつても著しく違ひ、殊に水陸分布は、氣温に及ぼす影響が著しく、海洋性氣候・大陸性氣候の別



大洋の浪 大洋に於ける光景で汽船と比べて波の大きさが想像される



コロンの海岸 季節風期には山の如き大浪が打寄せ人工築港で之を防いでゐる



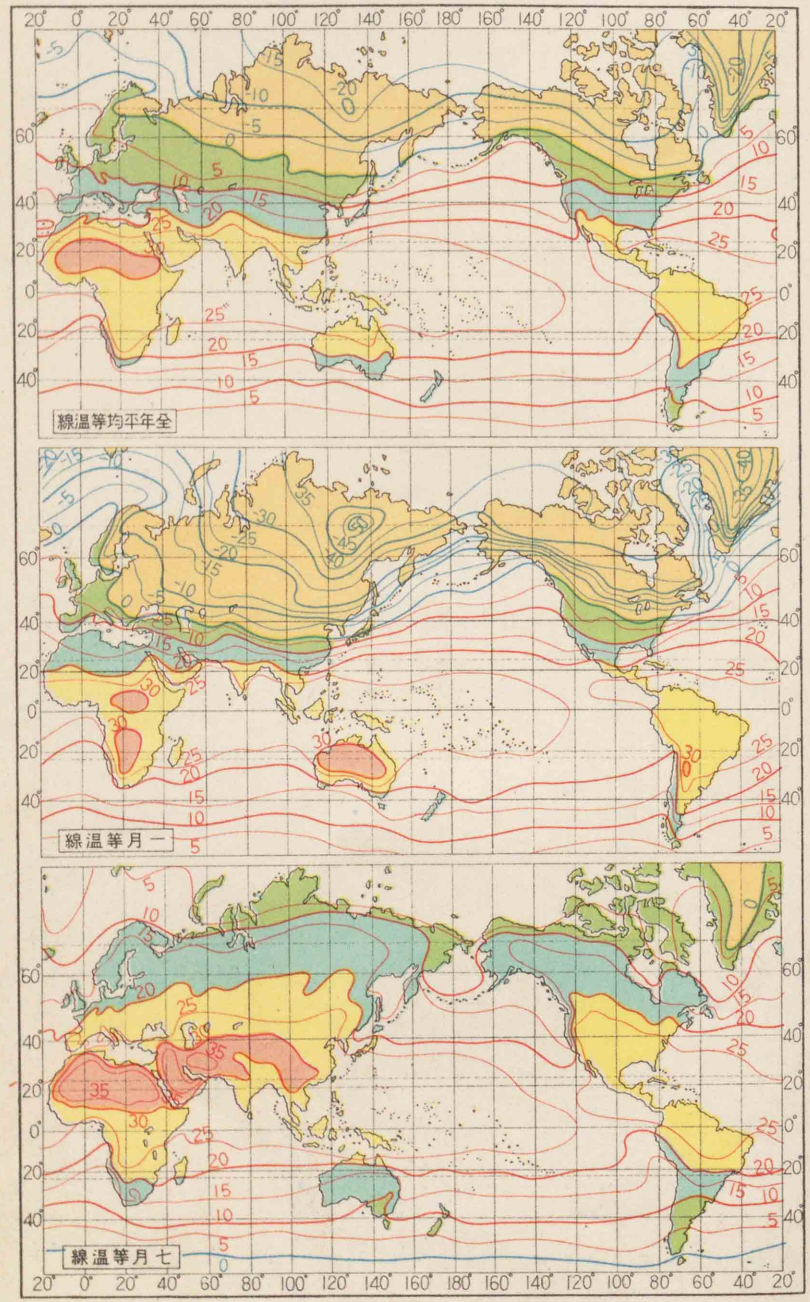
嚴島は潮汐の干満は海を  
見ない山國では  
奇異に感ずるが  
一は満潮時で廻廊が全く水上に浮  
び一は干潮時で同じ場所に神鹿が  
遊んでゐる







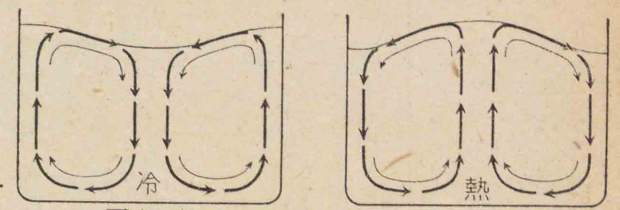
圖線温等界世



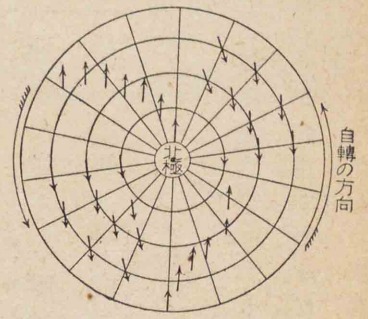
て吹くもの、不時に起るもの等がある。  
風には、一定して吹くもの、時を定め

南半球では左に偏る。  
轉の影響により、北半球では右に偏り、

即ち、大氣は高壓部から  
低壓部に流れ、風力は兩地の  
氣壓の差に正比例し、距離に  
逆比例する。氣流は地球自

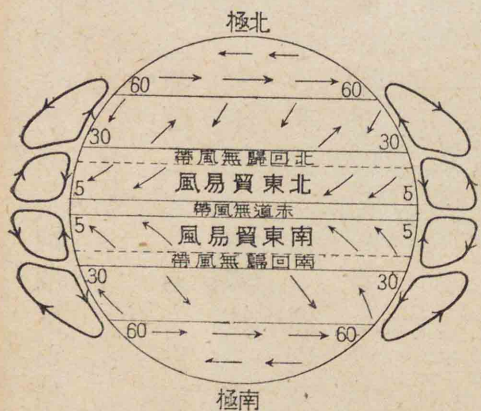


一が部が強く熱らせれらるとる大氣が  
④上昇して低氣壓を縮め、大氣が  
⑤下降して高氣壓を生ずる。



圖たし示をるす偏右が風

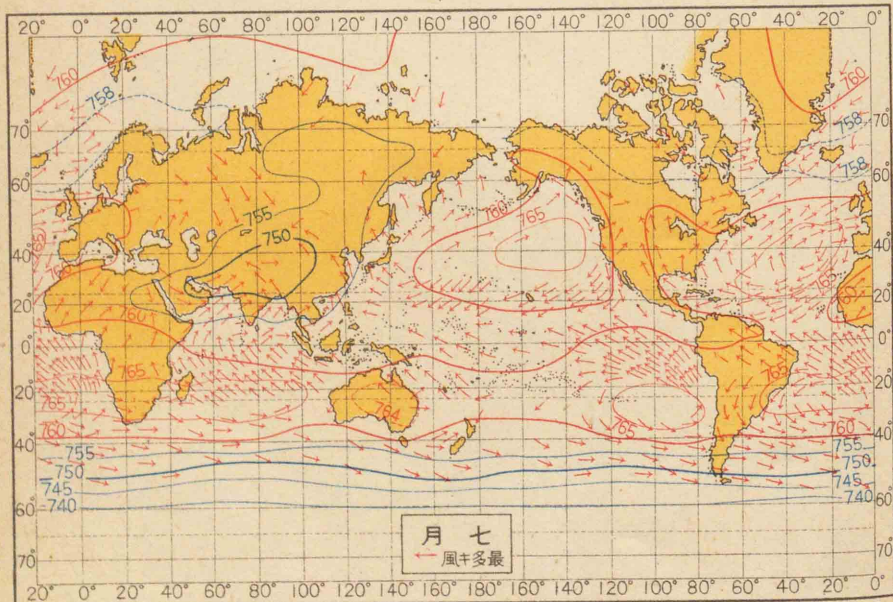
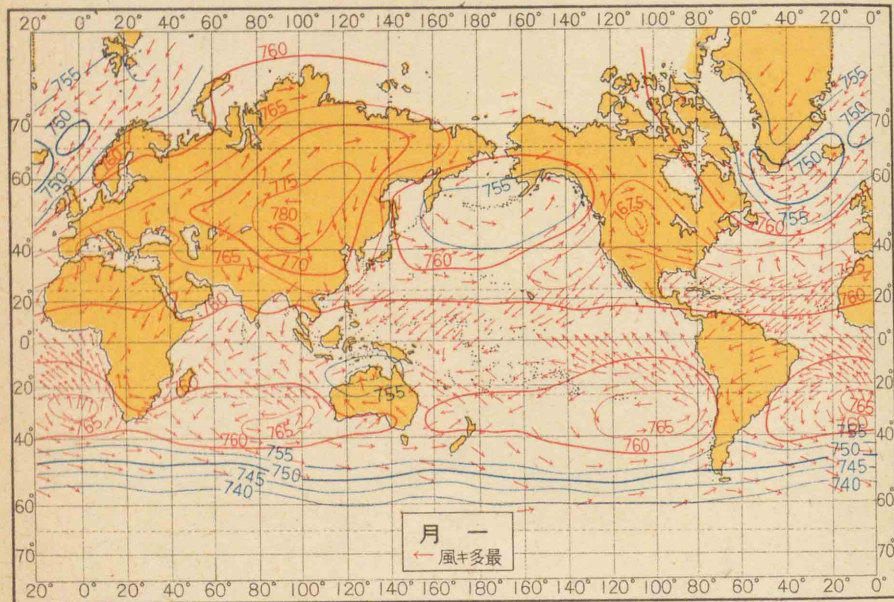
その強弱方向等に就き風則があ  
を得んが爲に起る大氣の流動で、  
大氣の流動 風は氣壓の平均  
る面を不連続面といふ。不連続面が  
地面に接する線を不連続線といひ、  
天氣の急變し易い處である。



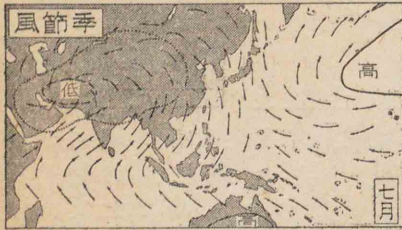
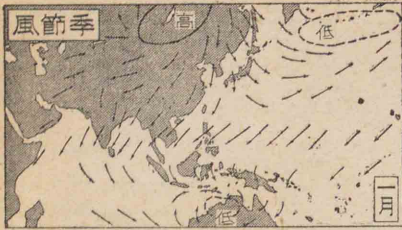
圖たし示を環循の氣大



圖線壓等界世







示を帶風節季のヤジア

は早いから、海岸地方では、晝は海から陸に、夜は陸から海に向ふ風が吹く、之を海軟風、陸軟風といふ。之と同理で、大陸の内部は、夏は低気圧の中心、冬は高気圧の中心となるから、夏は海から陸に、冬は陸から海に向つて風が吹く。之を季節風といひ、印度

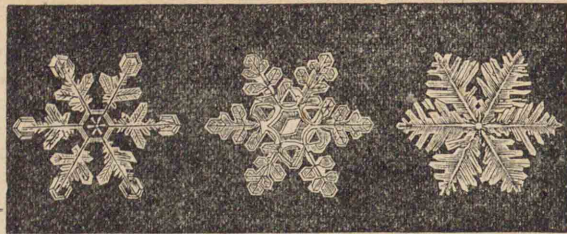
一定の風 赤道地方は気温が高く、大気が軽浮上昇して気圧を減ずるから、此處に赤道無風帯を生ずる。上昇した大気は南北に流れ、次第に冷えて下降するから、緯度三十度邊は、その大気の堆積により気圧が高く、大気は常に靜穩で、此處に回歸無風帯を生ずる。一部は此處から極に向つて吹くが、大部分は赤道に向ふ下層流となる。此等の氣流は常に變らないから、赤道の南北、緯度三十度内の海上では、四時一定の風が赤道に向つて吹いてゐる。之を貿易風と呼び、又反對に吹く上層流を反對貿易風といふ。

週期の風

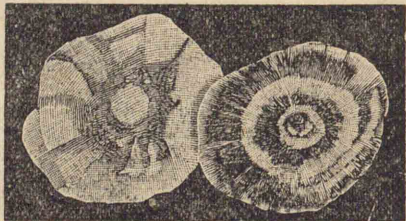
陸地は熱の吸収も放散も、水面より







雪の如く種々な結晶形を示す



實物の大電の断面を示す

れ、凝結したもので、気温が氷点以下であれば霜となる。露霜は晴れた静穏の夜に多い。又大氣が冷却すると、その中の水蒸氣は、凝結して微細な水滴となり、空中に浮遊する。その地面に近い處に出來たのを霧といひ、高い處に現れたのを雲といふ。雲には巻雲、積雲、層雲、雨雲等がある。雲の水分子が集つて、落下する水滴を雨といひ、気温が氷点以下であれば、結晶して雪となる。又不透明の小雪塊を霰といひ、水と雪との層が重つてゐる塊を雹といふ。雹は夏の雷雨に伴ふことが多い。

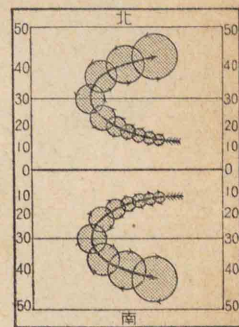
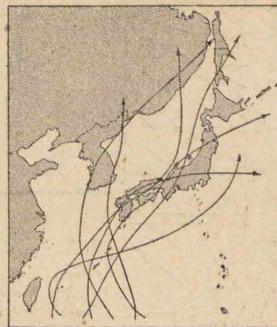
**雨量** 雨、雪、霰、雹等となつて、空中から降る水の量を雨量又は降水量といふ。雨量は緯度、海拔、地形、風向、海流等の關係によつて、著しく異なるもの

向風

雨は風に直に降る側山に多くなる



雨は風に直に降る側山に多くなる



旋風である。

### 第二節 降 水

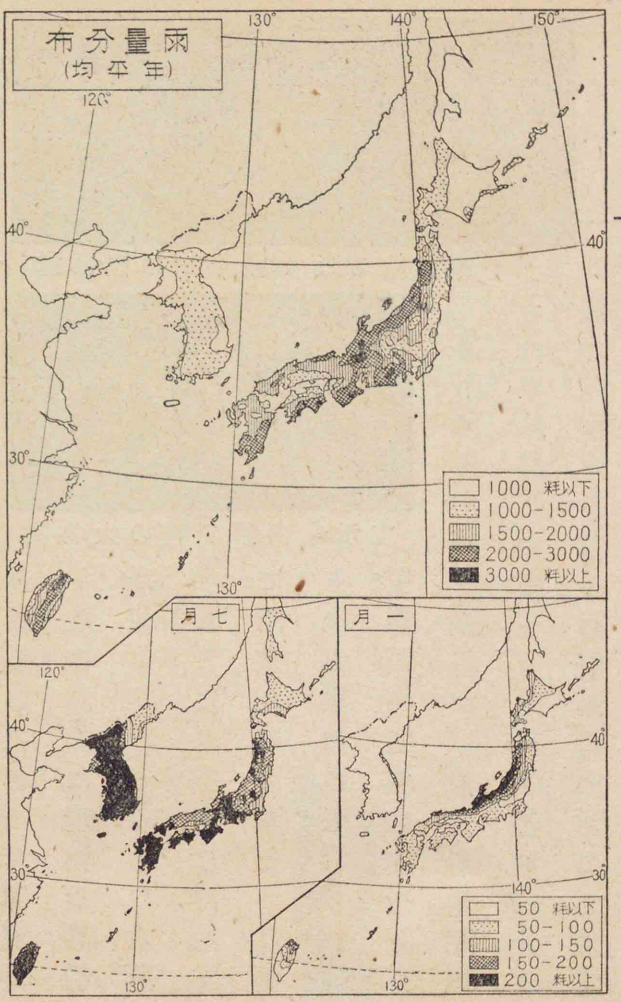
**水蒸氣の凝結** 大氣中の水蒸氣は、凝結して種々の形をなす。露、霜、雨、雪等がそれである。露は大氣中の水蒸氣が、冷却した物體に觸

地球道 以東のアジヤの海岸地方に卓越し、風自の雨量と深い關係がある。の轉南の特殊の風 一地方に低氣壓が起る。路爲でと、周囲の大氣は、旋風となつて此地赤ふると、逆旋風と日處に、流入し、又高氣壓が起ると、逆旋風となつて流出する。夏秋の頃、屢、我が國に襲來する颱風は、南洋に起つた大旋風で、その中心は、略、一定の進路をとつて移動し、路前面に多くの雨を降らす。ツムジ、龍卷等も、一種の小さい



北半球に於ける旋風と逆旋風



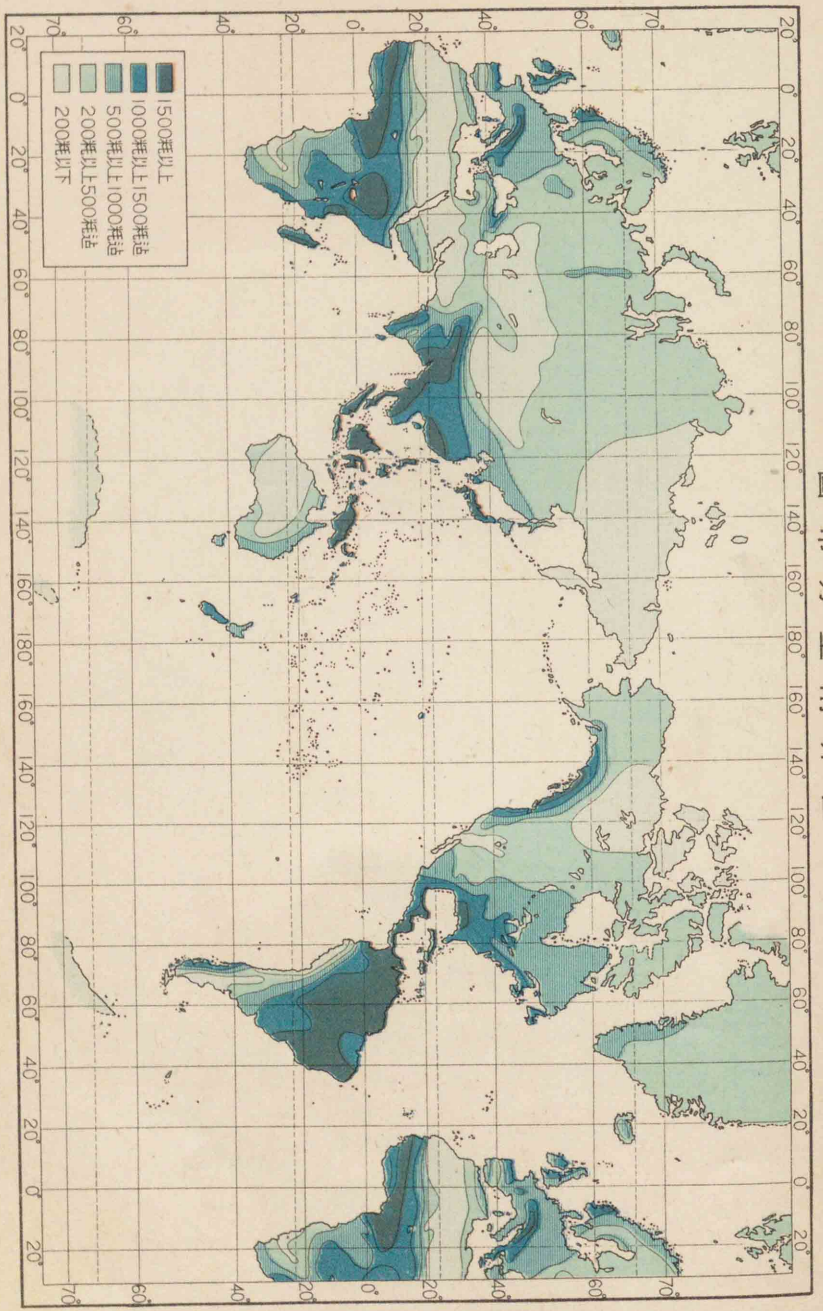


である。我が國は雨が多く、その大部は梅雨・颱風及び季節風に伴ふものである。

第三節 天氣と氣候

天氣 氣溫・氣壓・風  
 雨・晴・曇等、その時に於ける氣界の状態を天氣といふ。天氣は時々刻々に變るが、それは必然の理由があるから、之を考へて、將來の天氣を豫測することが出来る。我が中央氣象臺は、各地方の報

世界雨量分布圖













氣候には熱  
帶性、溫帶性、  
寒帶性又は  
大陸性、海洋  
性等の名が  
ある

告を集めて天氣圖を作り、將來の天氣を考察して、全般天氣豫報を出し、暴風雨等の虞ある時は、氣象特報又は暴風警報を出して、その地方を警戒する。

氣候は定りなく變化するが、永年に互つて觀測すると、或時期を通じた天氣の平均状態を知ることが出来る、之を氣候といふ。氣候は緯度の高低によつて異なるを原則とするが、地形や水陸分布等の關係に支配されることも甚だ多い。

## 第五章 住 民

### 第一節 人種と民族

人種 世界の住民は、體格容貌性情を始め、風俗習慣等が、處により著しく違つてゐる。それは永く住地を別にし、異なつた自然的環境の内に、違つた生活様式を経て來た結果である。通常身體、骨格、容貌、毛髮、皮膚等、言語、風習等の異同を究め、その似たものを集めて、世





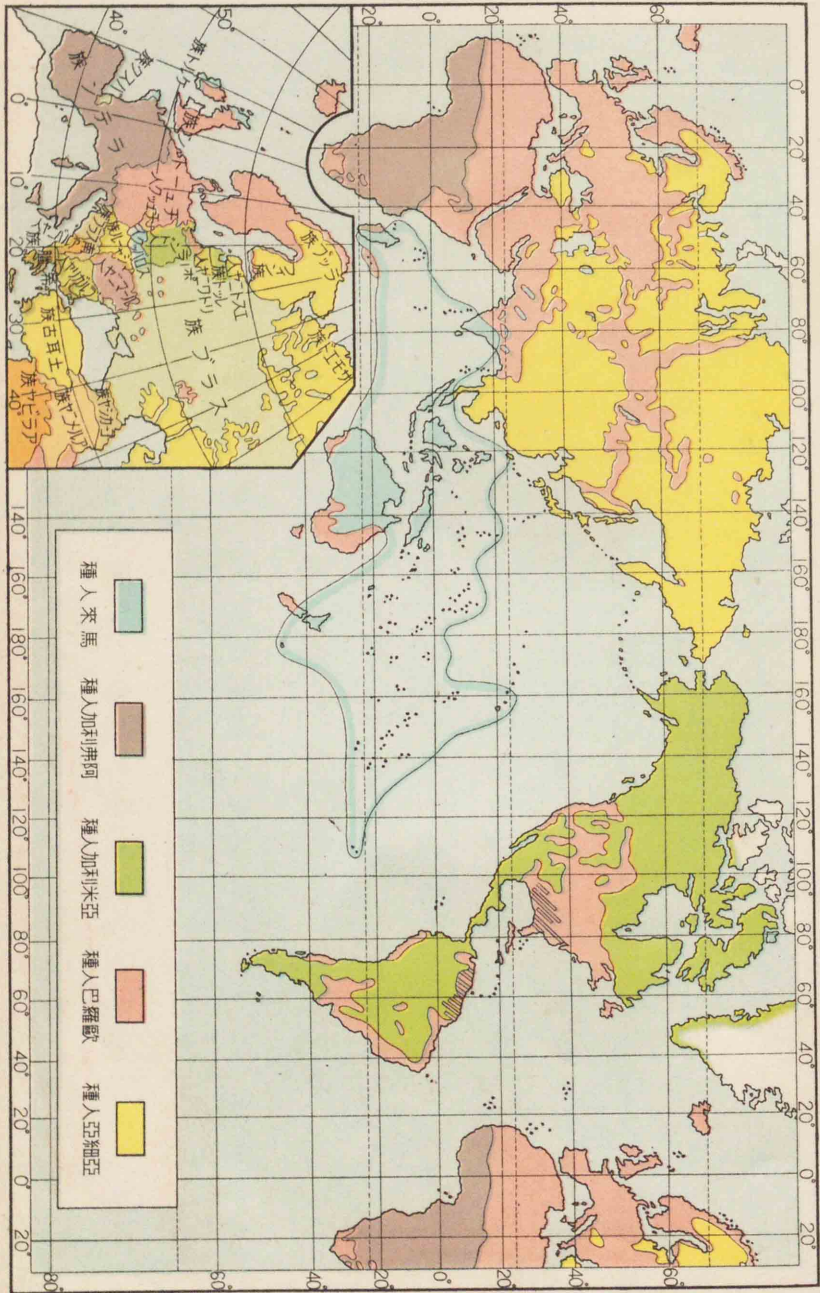
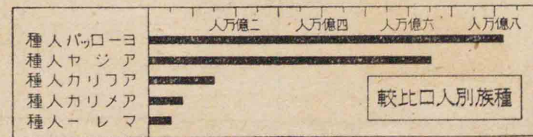
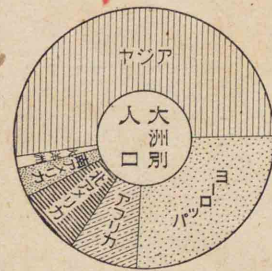


古い歴史のある地方は人口が密である。新開地は粗である。又商工業地は密で農牧地は粗である。

界の人類をアジヤ・ヨーロッパ・アメリカ・マレー(海岸島嶼)の五人種に大別し、各人種は、更に多くの民族に分れる。民族は地形・氣候等の自然的環境と、歴史・文化等の人文的環境とによつて、特有の風俗・習慣を持つてゐる。之を民族性といふ。民族性は多く國粹的で、保守の傾向がある。

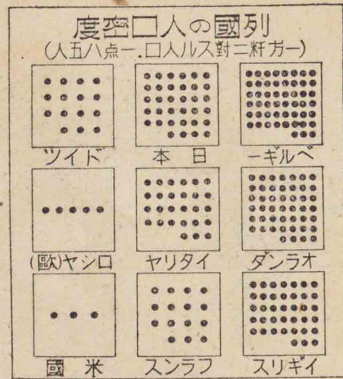
**大和民族** 我が國は大和民族を主腦とし、朝鮮族・漢族等を包含する。大和民族は我が國の創建者で、この國土に起源し、發達したもので、忠君愛國の念に厚く、世界無比の國家を樹て、民族意識が極めて強い。この他、臺灣には少數の蕃人(マレー族)が住み、北部にはアイヌ・オロッコ・ニクブン等の土人もゐる。

**人口** 世界の人類は、約二十一億と稱せられ、産業の發達せる地方及び歴史の古い地方に多く住んでゐる。東亞・印度・歐洲の中部以西・米國東部等は、人口の密集



世界人種分布圖



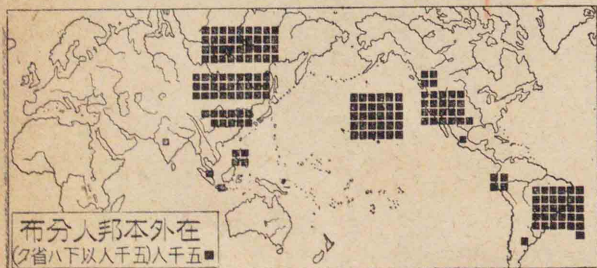


の多い自然的增加と、往住者よりも來住者の多い社會的增加とあるが、世界の全體から見ると、自然的増加の一要素のみである。

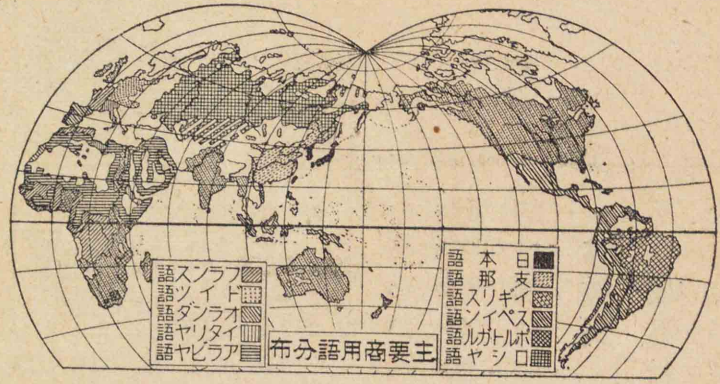
**移植民** 一國の人口が過剰となれば、生活の安易を國外に求めるやうになる。我が國は土地が狭く、人口が多いから、移民を奨励し、今は海外に在留する邦人の數は二百萬を超え、その中内地人は約百二十萬である。内地人の最も多く移住してゐる

地域で、總人口の七割以上が此處に住み、之に反し、熱帶森林地、山地、沙漠極地等は極めて稀薄である。又農牧地方には、人口が普遍的に分布し、商工地方では、一箇處に密集してゐる。人口の密な地方は、生存競争が激しく、優勝劣敗が繰返され、人心が最も緊張してゐる。

一國の人口増加には、死亡よりも出産





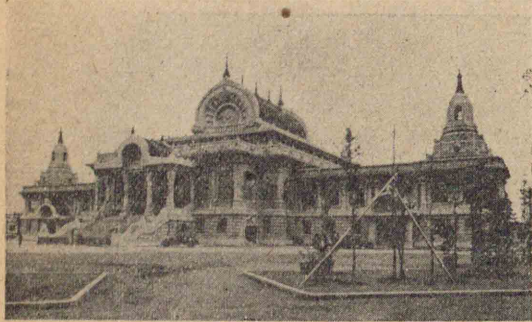


のは、満洲國・支那・ブラジル・ハワイ・米國等で、何れも十萬を超え、フィリピン・カナダ・ペルー・アルゼンチン及び蘭印地方等が之に次ぐ。

第二節 言語と信仰

**言語** 言語は思想の發表に缺くべからざるものである。現今行はれてゐる言語は極めて多いが、中でも英語は、英・米の兩國と、その植民地に行はれる外、世界の商業語として勢力がある。フランス語は社交語として、ドイツ語は學術語として、共に國際的に用ひられる。又スペイン語は、主としてラテンアメリカの諸國に行はれ、將來の商業語として、注目されてゐる。

我が國語は、教育の發達と共に、全國に普及統一されて、意志の疏通がよく行はれ、國民の結合が極めて強固である。近年國勢の發展と共に、次第に大陸に普及し、極

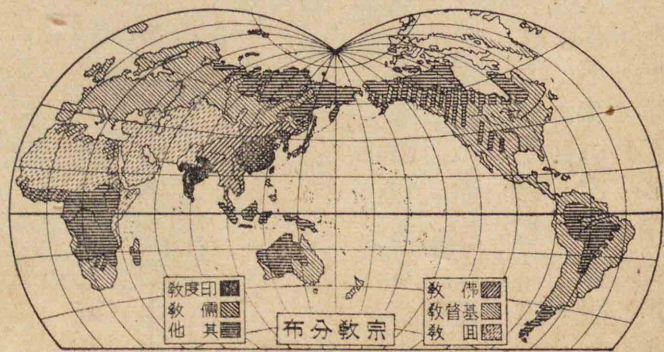


支那語・印度語も語る者  
は多いが國  
際的の言語  
ではない

東語として重視されるに至つた。

**宗教** 宗教心は、文野を問はず認められるが、世界の大宗教といはれるのは、佛教キリスト教・回教・印度教である。佛教は東亞の諸國に行はれ、キリスト教は歐米の諸國に

印度・回教は西南アジヤ・東南ヨロップ及び北アフリカ等の地方に行はれ、印度教は印度に盛である。その他ユダヤ人の住地にはユダヤ教、西藏・蒙古では喇嘛教（佛教の一派）が行はれる。此等は何れも、永い歴史があつて、民族精神と融和し、その關係は容易に動かし難く、言語と共に、國民の統治上大切なものである。國家により、或宗教を國教と定めてゐるものもあるが、我











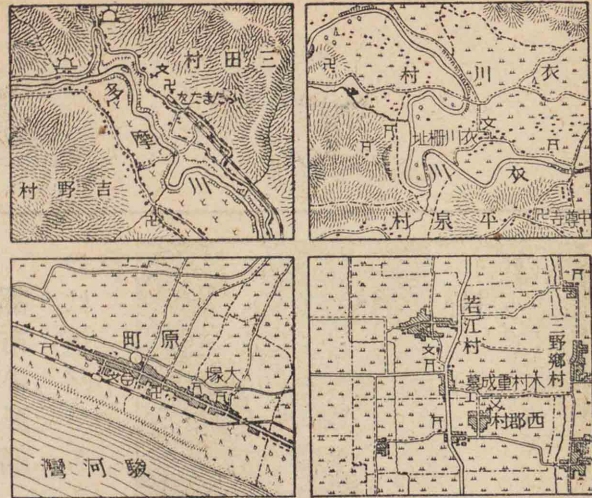
スエリ族の冬の居住は氷塊で作る

スエリ族の如く、轉移の必要上、簡単な天幕生活を営むのもあり、寒地では丸太小屋を構へ、又は氷屋に住する者もある。その住居の形式は、地理的環境に應じて種々あるが、温帯の文明國人は、木材、石材及び人造石材等を使用して、宏壯な家を作り、或は大廈高樓を建築し、摩天街を形成することがある。

#### 第四節 人類の住所

**聚落** 人類は共同生活を営み、概ね集團をなして聚落を作る。狩獵遊牧の時代には、住所は常に轉々として定まらないが、農業を営むに至れば、定着して村落を作り、人口が稠密となつて商業が始れば、物資交換の中心町が興り、産業の發達に伴つて、次第に大なる都市に發展するやうになる。

**聚落の形態** 聚落の形態は、發達の原因及び地形等によつて違



右(上)散村 左(上)集村 右(下)街村 左(下)鏈村

つてゐる。之を形から分けると、民家が散在してゐる散村、密集してゐる集村、道路に沿うて列をなす街村、斷續してゐる鏈村、傾斜地に階段狀をなしてゐる層村等がある。

**都市の種類** 都市はその發生の原因及び發

展の事情等によつて、種々に分れるが、政治都市、國防都市、學術都市、生産都市、交通都市、歴史都市、温泉都市及び靜養都市等がその主なもので、多く政治、軍事、教育、産業等の中心地に勃興するを常とし、その他、古跡、勝地の所

- 1 ワシントン・カンベラ
- 2 横須賀・ポーツマス
- 3 ケンブリッジ
- 4 大阪・エッセン
- 5 下關・パナマ
- 6 京都・ロンドン
- 7 別府・カルルスバード
- 8 輕井澤・ニース

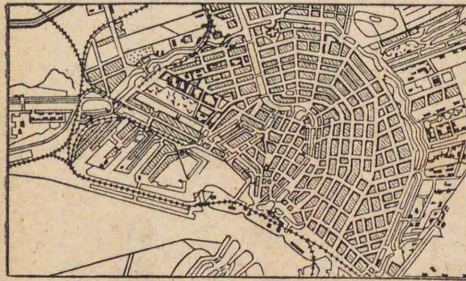
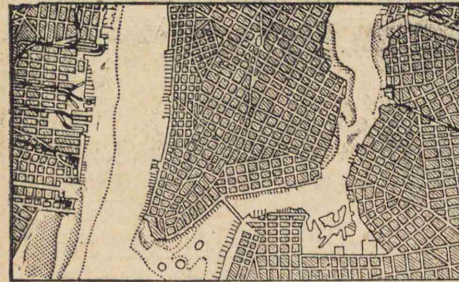


層村をなす伊香保



在地に遊覽町・社寺の所在地に門前町・航路の要地に港市の發達することがある。港市には船舶の碇泊・貨物の積卸等に便する特別の装置を要する。

都市の形態 都市の形態を決定するものは道路である。昔の都市は、多く自然の發

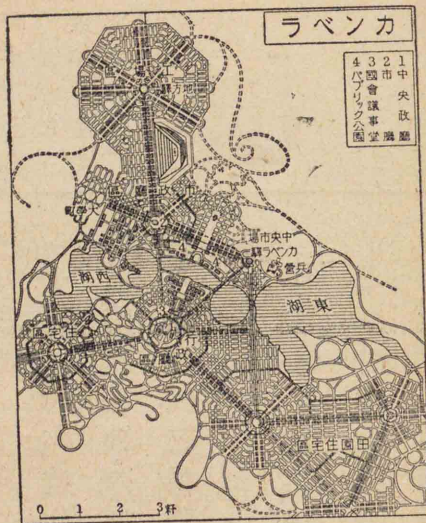


ムダルテスムア(下) クーヨーユニ(上)

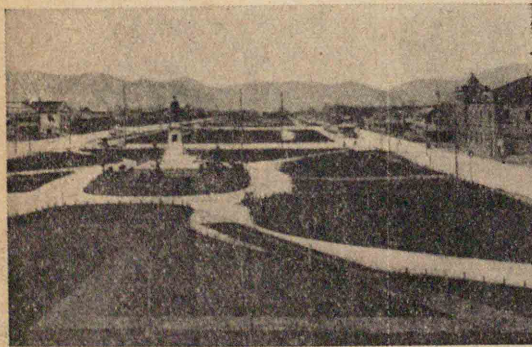
達に委ねてあつたので、概ね不規則であるが、近年建設されるものは、都市計畫に基いて豫め設計を施し、格子狀(京都・ニューヨーク)放射狀(大連・パリ)同心圓狀(アム



ぶ並が店食飲・店産土で町前門の荷稻川豊



定め、交通の便利・住居の安寧・健康の保持は勿論、都市の美觀をも圖る。都市の美觀を保つ爲には、建築物の高さ・材料等を制限し、道路の幅を決定し、街路樹を植ゑ、十字路に小公園を設け、公園式街路を建設する等、種々の設備を施す。大都市内の道路は、斯くして次第に綠樹化されてゐる。



路道式園公るた然整で部一の市幌札

ステルダム及び此等の組合せ(カンベラ)による整然たるものがある。我が北海道・樺太等の新開地には、格子狀の市街が多い。

都市計畫 都市は發達につれて、保健上に種々な缺陷を生ずるから、その害を除き、福利を増進する爲に

都市計畫を行ふ。都市計畫には、商業地域・工業地域・住宅地域等の區別を



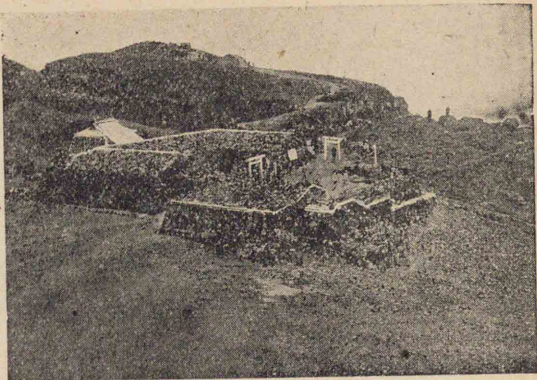
カーライル曰く「蛇や牛や狸を拜するものは蛇や牛や狸に類する。一國民の道徳知識はその崇拜する理想の表示に一致するものである」と

### 第五節 自然と人生

**太陽と人生** 太陽が人生に最も深い關係を有するのは、その光と熱とである。この光熱は、一方には人類の最大強敵といはれる細菌を死滅せしめ、他方にはその強弱によつて、地表に熱帶温帶寒帶等を生じて、相異なる獨特の文化景觀を形成し、又晝夜の如き日光の變化に、人類生活の大部分を支配する。

太陽は、古來造化無限の勢力者として崇拜せられ、殊に我が日本では、國旗を日の丸とし、皇祖を日の神と崇め、皇系を天日嗣と稱へ奉り、我が民族が持つ太陽觀が、崇高なる國民的理想と一致することを示してゐる。

**地形と人生** 山脈は交通の障壁となり、文化の境界をなす場合が多く、三國山脈が關東型と北越型とを分けるが如きは、この例である。又富士御岳等の高山は、莊嚴畏敬の感を起さしめ、社寺を建て



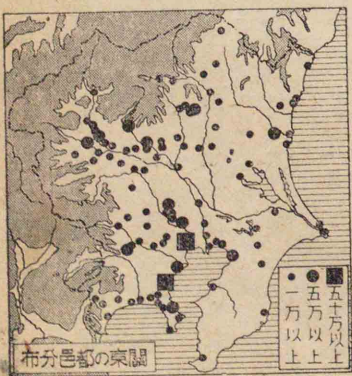
富士山の頂にあつる淺間神社の奥宮

て之を神格視し、且近年青年婦女子が、日本アルプスを始め、多くの高山に登山する者の多いのは、崇高なる大

自然の靈氣に觸れんが爲である。山地の住民は、その土に安住して自給自足し、郷黨は苦樂を共にするから、獨立團結の念が強く、且主長を尊ぶ。之が山國に激烈な愛國心の興る所以である。

平野は生産が豊で産業が興り、交通が至便で都會も發達する。従つて生存競争の最も激しい處で、住民は自宮から競争的實利的となり、伶俐で社交性に富むと共に、浮薄に傾き易い。

**海洋と人生** 未開の時代に於いては、海は交通上の大障害であつたが、今は最も經濟的な世界の公道で、海外と交通し、貿易し、文化の輸入に便する。且海洋は、氣候を調節し、産物を





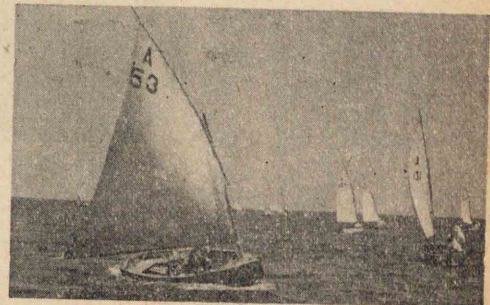


寒地に住む民の生活 熱地に住む民の生活

進して益、開明の度を加へ、文化日に月に發達する。今日世界の文明國が、何れも温帶性氣候にあるのは、氣候と文明との間に、密接不離な關係がある爲である。

第六節 文化

山地の住民は山地によつて他と隔絶され、海の住民は海によつて他と隔離され、その性質に相通ずる點がある



輕舟に由り島國根性に陥り易い缺點はあるが、常に雄大なる大海原に接してゐる爲、自然宏壯の氣宇を養ひ、進取の氣象に富む。且島は外敵に對し一致團結してその侵入を防ぎ、自國の文化を保存し、主長は大陸の變遷に關係なく、その血統は永續し、威嚴は長へに保たれ、多くの臣下

と親子の情愛を生ずる。これ島國民に勤王心が深く、忠君愛國の思想の強い所以である。

氣候と人生 人類の活動に及ぼす地理的條件の中で、最も重要なのは氣候である。熱帶地方は氣温が高く、天産に富み、生命を野生の果實草根に托し、且衣服の必要もなく、灼熱せる炎威は、筋肉を緩め、勞せずして心身の疲勞を感じずるから、住民は安逸に流れ易い。寒

帶地方は寒氣が酷しく、生物は少く、萬物寂寥として、住民は常に衣食を求むるに汲々とし、生活に餘裕がない。獨り温帶地方は、氣候が温和で、生物の繁殖はその度に適するが、勤めなければ之を得難く、日常の生活は、決して安逸を許さない。且四季の變化は、人心を適當に刺戟して活氣を興へ、智識を増















	主 要 産 地	摘 要
米	支那・印度・日本・印度支那・蘭領印度。	アジアの季節風帯を主産地とし、アジアでは主食物とする。
小 麥	ソ聯・米國・印度・フランス・カナダ・アルゼンチン。	冷涼な氣候を好み、歐米人の主食物である。その需要が近年著しく増加した。
砂 糖	甘蔗糖は印度・キューバ・フィリピン・ハワイ。甜菜糖は米國・ドイツ・ソ聯・フランス。	甘蔗糖は熱帯・亞熱帯に、甜菜糖は寒冷な地方に適する。
茶	印度・セイロン・支那・日本。	東部アジアは緑茶、南部アジアは紅茶。
珈 琲	ブラジル・コロンビア・中米・蘭領東印度。	ブラジルは全世界の約六割を出す。
綿	米國・印度支那・ソ聯・エジプト。	米國は全世界の半以上を出す。
麻	亞麻・大麻はソ聯・黄麻は印度、マニラ麻はフィリピン、サイザル麻はメキシコを主産地とする。	

も盛なのは、熱帯から温帯に亙る平野で、中にも米・茶・綿等を多く産する東南アジアの季節風帯地方、麥類・馬鈴薯・甜菜・麻等の産に名高いヨーロッパ大平原、小麥・玉蜀黍・綿等を産する北米大平原等である。その他、滿洲國・濠洲・アルゼンチン・エジプト及びシベリヤの黒土帯地方も、主要な農業地方である。

**農産物** 主要な農産物は、米・小麥等の食糧品、砂糖・茶・珈琲等の嗜好品である。



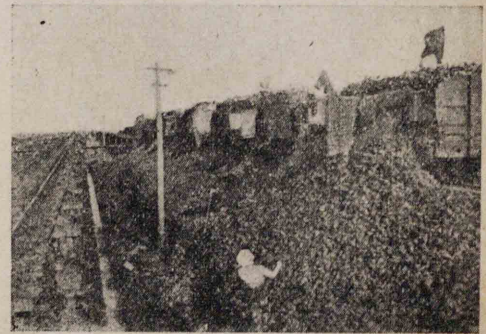




れ、北海道では、大豆、馬鈴薯、甜菜、亞麻等の耐寒性農産物を出し、朝鮮では、大豆、麥類、粟等が多く、近年全土に亙つて米作が盛となり、一部には綿の産もある。

近年商工業の發達につれ、住民の農村を離れる傾向もあるが、土地の利用、農事改善の餘地は尙多く、殊に收穫の増加を最大急務とする今日、徒らに都市集中は、大いに考慮すべき問題である。

**養蠶業** 養蠶は周到な注意と、人手を要することが多いから、労働者が得易く、勞銀の安い地方に盛である。我が國では、家蠶を主とし、南滿北支では柞蠶、中支南支には天蠶も行はれる。我が國と支那とは、世界の二大養蠶國で、歐洲ではイタリヤのポー河流域と、フランスのローヌ河谷に盛である。



製糖工場に集つた北海道の甜菜



米國の農場 廣漠とした農園に農夫は機械を利用し大規模な農業を行つてゐる

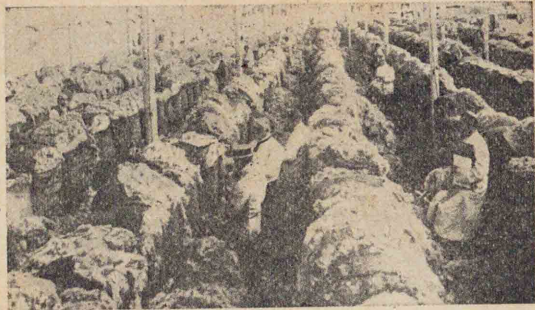


ブラジルの珈琲園 際限もなく波状の小丘が續き其處が一面に珈琲園となつてゐる



北海道の農場 他府縣では見られぬ大規模の農法で新開地らしい氣分が充ちてゐる





羊毛の品位を inspection するニシテ商人

パ・濠洲  
及びア  
ルゼン  
チン等  
は主要

産地	摘要
牛 印度・米國・ブラジル・ソ聯・アルゼンチン 馬 ソ聯・米國・アルゼンチン・ブラジル・ドイツ 豚 支那・米國・ドイツ・ブラジル・ソ聯 羊 濠洲・米國・ソ聯・アルゼンチン・ニュージーランド	肉・乳・皮等の生活必需品を供給し、又勞役にも使用する。交通運輸を助ける外、軍事上重要である。主として食用とする。羊毛は濠洲が世界全産の三分の一を産する。

**第二節 牧畜**

**牧畜地方** 家畜は纖維原料・皮革及び食糧等を供給し、或は運輸の機關として、その用が頗る多い。牧畜は概して少雨の草原に適するが、平野が廣く、人口の稀疎な地方には、毛用肉用を主とした大牧場があり、人口の稠密な地方又は山地の多い處では、乳用肉用を主として規模が小さく、副業的ものが多い。アジアの季節風帶・北米の中央平原・東部ヨーロッパ



濠洲の牧羊場 さすがに世界第一の羊毛産地で原野一面が羊の大群に被はれてゐる



スイスの牧畜 後は高山前は深谷 僅に山間の狭い斜面が牧場に利用されてゐる



雲仙國立公園 眺望に噴氣孔に名高い雲仙山麓の白雲牧場で長閑な一風景を添へる



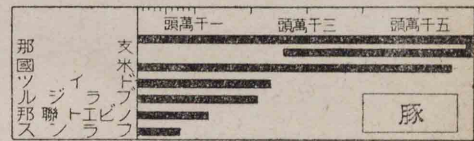
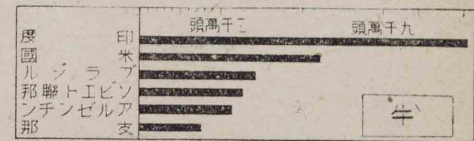
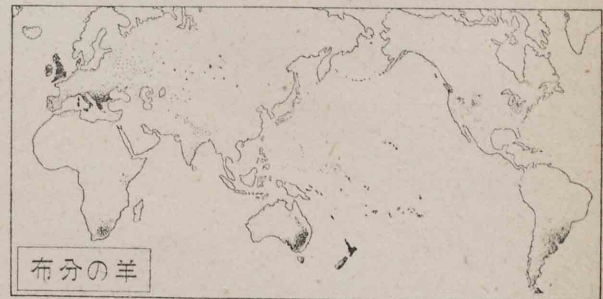
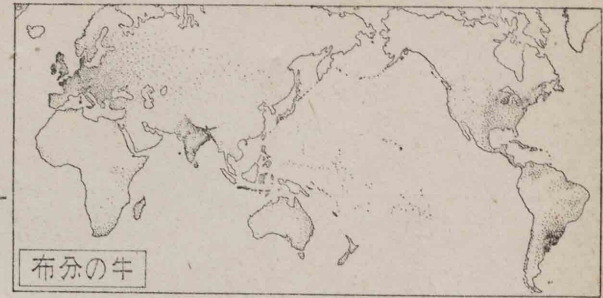


森林地方 森林は、樹木の種類により、針葉樹林・潤葉樹林等に分れ、位置によつて、熱帯林・温帯林・寒帯林等に分れる。主要な森林地帯は、シベリヤ・カナダ・米國・北部ヨーロッパ等で、南米・アフリカ等の熱帯多雨地には、開發を將來に待つ天然の大密林が廣い。

林産物 建築・土木用として木材の需要は著しいが、近年紙・人絹・セロファン等の原料としてパルプの需要が激増し、温帯・寒帯の針葉樹を原料として、米國では世界の約四割を出

第三節 林 業

して來たが、近年生活様式の變化と共に、保護獎勵も加へられて、進歩の跡は著しいが、到底大規模の實現は望まれない。牛は中國・九州及び朝鮮に多く、馬は北海道・奥羽・九州を主産地とし、豚は臺灣・沖繩等で多く飼ひ、羊はまだ試育時代を脱しない。



駱駝、アンデス山地の駱馬、アルパカ、西藏の犛牛、寒地の馴鹿等も、地方的に重要なものである。近年養鶏も各地に盛である。

我が國の牧畜 我が國は山地が多く、人口が稠密な上に、古來肉食毛衣の風習がなかつたので、牧畜は僅に農家の副業として發達

る。この他高温多雨地の象・水牛、沙漠地方の馴化性が強く、殆ど世界の各地に飼育される。この他高温多雨地の象・水牛、沙漠地方の馴化性が強く、殆ど世界の各地に飼育される。この他高温多雨地の象・水牛、沙漠地方の馴化性が強く、殆ど世界の各地に飼育される。

な牧畜地帯となつてゐる。

畜産物 家畜の種類は多いが、最も重要なのは羊・牛・馬豚等で、此等は氣候に對する



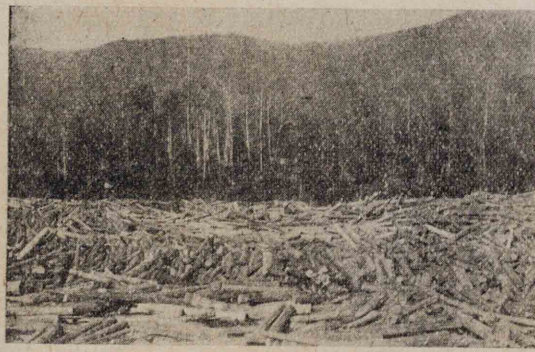


し、我が樺太・北海道にもその産が少くない。ゴムは用途が頗る廣く、マレー地方の栽培ゴムを主とし、南米の天然ゴムは、舊時の地位を失った。樟樹から採る樟腦は、臺灣の特産で、世界需要の大半を供給する。

我が國の林業 我が國の風土は、森林の繁茂に適し、全面積の半以上は林野であるが、地形の關係上、運材に不便が多く、且木材・パルプの需要が著しい爲、其等の輸入は頗る多い。

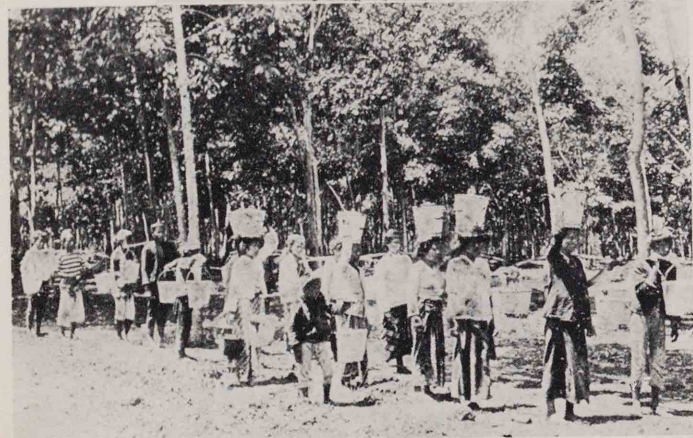
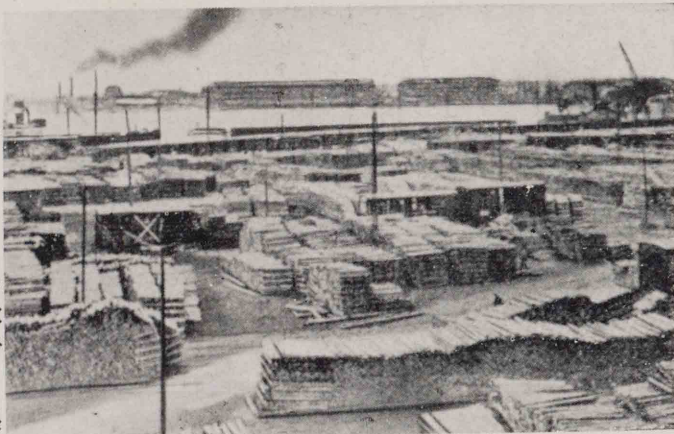
#### 第四節 水産業

漁業地方 淺海は海藻が繁茂して、魚族の安息所となり、浮游生物が多く、食餌に富む上に、産卵にも適するから、陸棚の廣い寒帶・溫帶の海面は、よい漁場である。北海・ニュー



(太樺) 觀壯るせ積堆が材木たれさ採伐

レニングラードの木材製材して輸送を待つ木材が多数の大山小山を造つて埠頭に積まれる



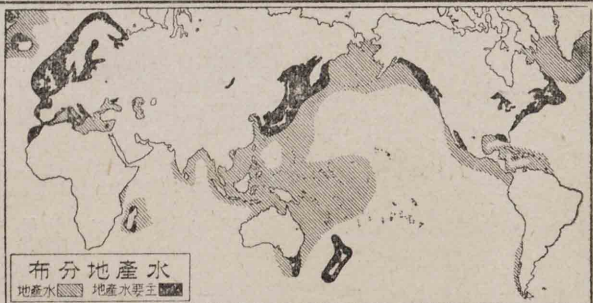
マレー地方のゴム林 採集したゴム液の容器を頭上に載せ又は手に提げて工場へ運び行く

北海道のバルブ工場 苦小牧にある王子製紙會社の工場で累積される木材はパルプの原料

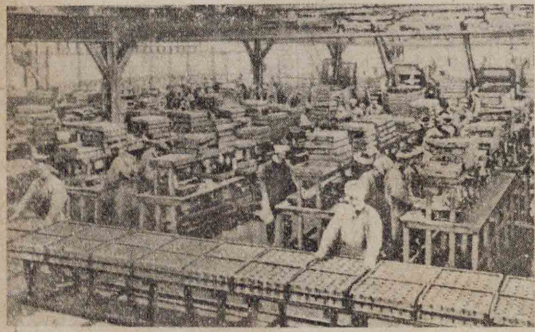




海豹島(日本)  
 プリビロフ  
 諸島(シベリ  
 ヤ)コマンド  
 ル諸島(米國)  
 は臘朧獸の  
 繁殖保護地  
 である



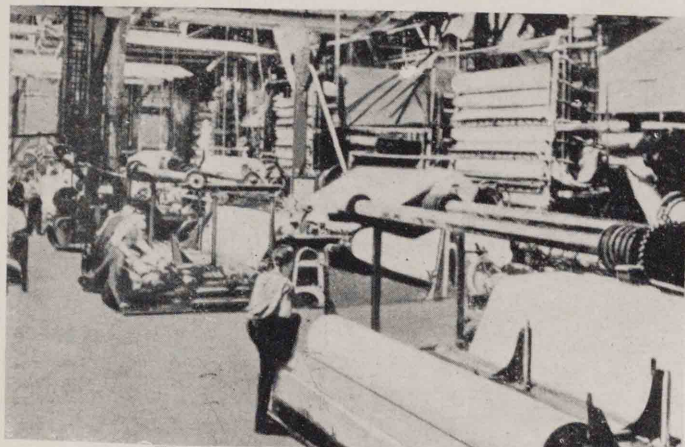
我が國の水産業 我が近海には、陸棚が  
 廣く、且寒暖二種の海流を繞らしてゐる爲  
 漁獲物が甚だ多く、世界第一の水産國であ  
 る。オホーツク海漁區即ち北洋漁業は、最も



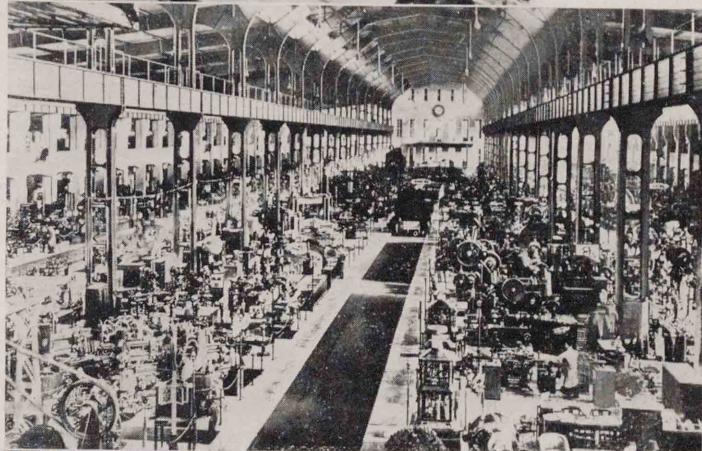
日本漁業社會の鮭罐詰工場内

フオンドランド附近及び日本近海は、世界の三大漁  
 場と呼ばれ、之に臨む日本英國諾威及び米國は、主  
 要な水産國である。

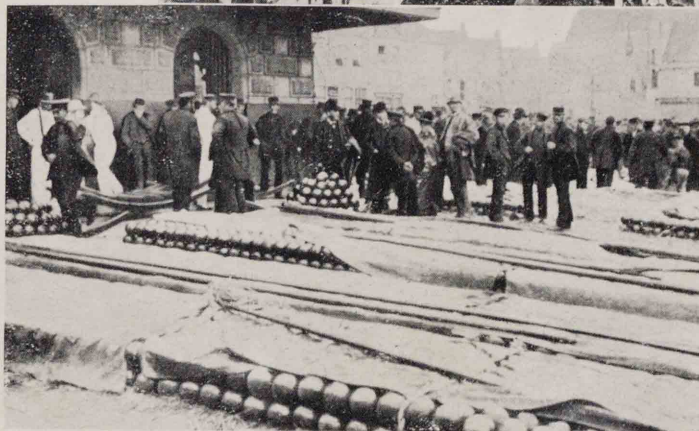
水産物 北海漁場は鯨・鯔等の漁獲が多く、ニ  
 ーフオンドランド漁場は鯨・鯔を主とし、日本漁場は  
 鱈・鯨・鮭及び蟹等の漁利  
 に富み、又海藻が多く、この  
 漁場の北部及び附近には、  
 臘朧獸が多く棲んで良好  
 の毛皮を供給する。



米國の製紙工場 製造され  
 て間斷なく出て來る紙は一  
 方から次々に捲棒に捲取ら  
 れる

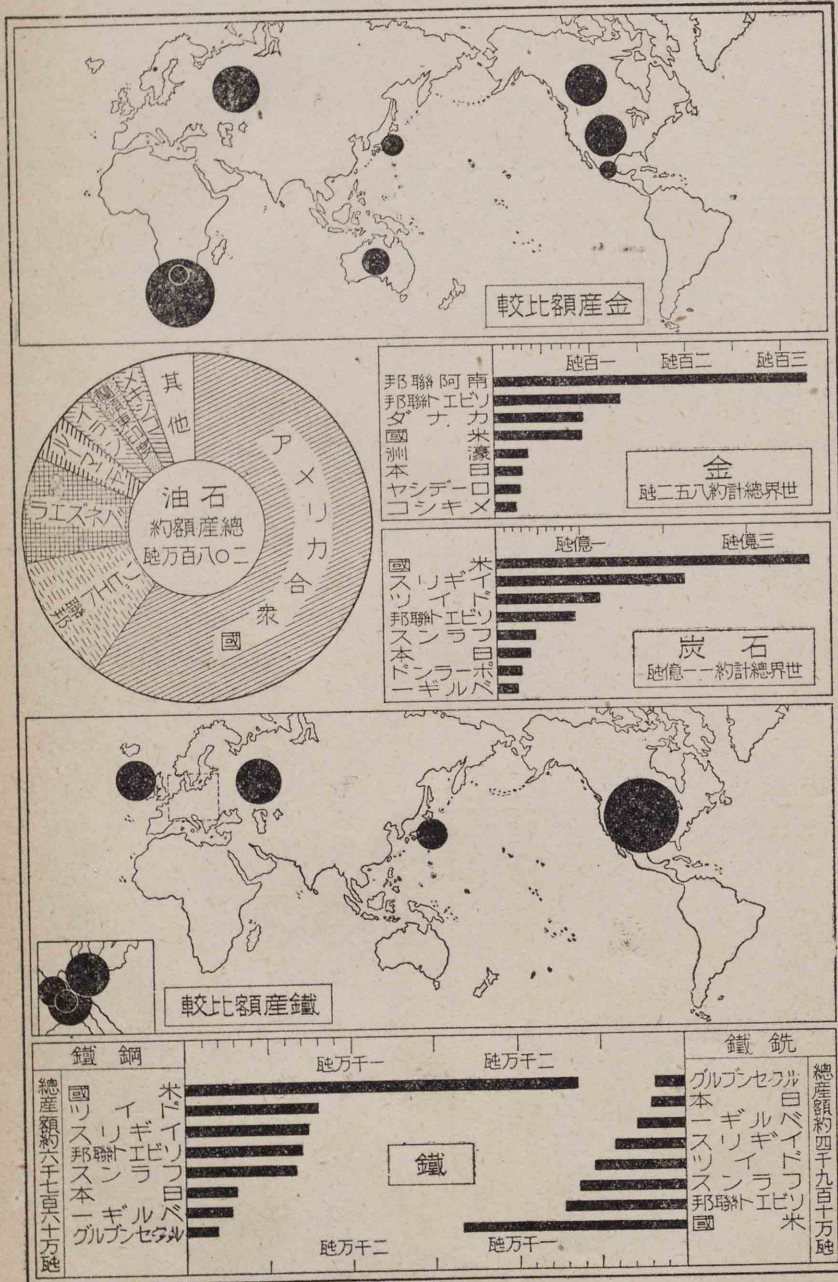


ドイツの機械市 毎年春秋  
 の二回にライプチヒで開か  
 れ世界的に著名な機械の見  
 本市



オランダの乾酪市場 大砲  
 彈の形をした赤い乾酪球を  
 無數に並べ塵除けの布が懸  
 けてある





場干の鱈開るけ於に岸海西の道海北

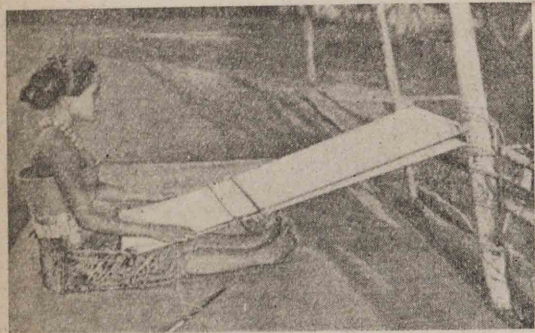


臺大規模に行はれ、冷凍罐詰・燻製等の設備が整つて、練鮭・鱈・鱈蟹等の漁獲及びその加工が盛に行はれ、奥羽以南には、鱈・鮪・鯉・鯛等の暖海性魚類が多い。近年養殖漁業も盛となり池沼には、鯉・鰻、浅海には海苔・牡蠣等の産物の特技として名高い。

製鹽 歐米諸國では、多く岩鹽を産するが、我が國は全部を海水に仰ぎ、内地では火力製鹽、臺灣、朝鮮では天日製鹽を行つてゐるが、殆ど食用に充てられ、工業原料の鹽は多くを輸入してゐる。

第五節 鑛 業





人手と腰で織物してゐるポネルオ婦人

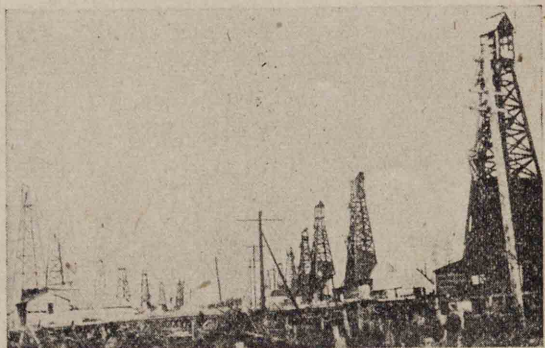
石油は米國・  
蘭領東印度・  
英領ボルネ  
オ等から輸  
入する

**我が國の鑛業** 我が國は、鑛産の種類に富むも、産額は概して少い。その中稍、豊富なのは石炭で、全鑛産の五割餘を占めるが、近年國內工業の發達によつて、銅と共に殆ど自給の程度である。石油の産は

手少く、種々の人工方法により對策を講じてゐるが、尙需要の大部分は輸入に仰いでゐる。

第六節 工業

**工業の發達** 工業の初期は専ら手工であつたが、その發達につれて機械工業となり、動力も人力獸力より、更に蒸氣力電力を使用するに至つて、工業界に一大變化を來し、大規模の機械力により、大量生産を行ふやうになつた。



北樺太の油田の光景は、日本で最も美しいといはれる。

**鑛業地方** 鑛業の盛衰は、主として埋藏量に支配せられ、氣候・風土の影響を受けることが少い。主要な鑛業地方は北米を第一とし、鐵・石炭・石油等の産が甚だ多く、ラテンアメリカ諸國は銀・銅・石油、西ヨーロッパは鐵・石炭、アジアは石炭・石油・錫等を多く産する。

**鑛産物** 主要の鑛産は金・銀・銅・鐵・石炭及び石油等で、近年石油は、燈用としての價値は減じたが、燃料又は動力用として軍事上、産業上最も重視せられ、國際間の油田爭奪が激甚を極めてゐる。

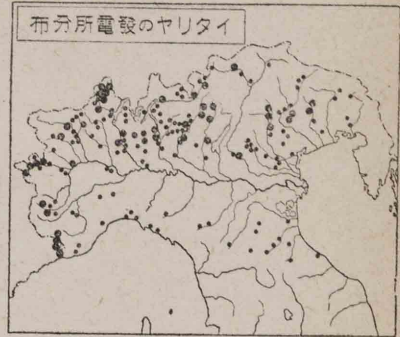
産地	摘要
金 南阿ソ聯・カナダ・米國・濠洲。	南阿ソ聯を二大産地とする。
銀 メキシコ・米國・カナダ・濠洲・ペルー。	メキシコは世界の四割を産する。
銅 米國・チリ・カナダ・ローデシヤ・コンゴ。	米國は世界全産の三割を出す。
鐵 米國・ドイツ・イギリス・ソ聯・フランス。	米國は世界全産の約三割を出す。
石炭 米國・イギリス・ドイツ・ソ聯・フランス。	米英獨の三國の産は、全産の六割餘を占める。
石油 米國・ソ聯・ベネズエラ・ルーマニヤ・イラン。	米國は世界全産の約七割を出す。



業 窯	業 工 學 化	業 工 具 器 械 機	屬 金 工 業	業 工 織 紡	主要 工 産 物
陶 磁 器	紙 藥 染 人 絹 織 物	科 農 自 造 學 動 船 耕 車 機 械 汽 車 績 機	製 鐵	麻 毛 絹 織 織 織 物 物 物	綿 絲 綿 織 物
英・獨・米・日等の諸國が主産地である。	米國を第一とし、日・英・獨等之に次ぐ。米國が第一の産地で、ベルギー硝子・ボヘミア硝子は共に優品として知られ、我が國も硝子工業が盛で優品を出す。	日・米が二大産地で、英・伊・獨・佛等が之に次ぐ。ドイツが人造染料の二分の一を出し、英・米二國が之に次ぐ。ドイツ・スイスが二大産地で、我が國も頗る盛である。	米國を第一とし、獨・英・佛・白等之に次ぎ、我が國は原鐵に乏しいが、輸入鐵鑛によつて製鐵業が頗る盛である。	亞麻布はイギリス・ベルギー・黄麻布は印度に多い。	英・米二國が世界の二大産地であるが、近年我が國の輸出綿製品は、世界の王座を占むるに至つた。

摘

要



工業の發達は、地形氣候原料等の自然的條件と、原料動力交通資本學術等の人文的條件に支配されるものであるから、氣候のよいこと、原料の豊富なこと、動力燃料に富むこと、勞力を得易いこと、交通の便利なこと、資本の潤澤なこと、科學の進んでゐること等は、工業を發達させる主要な要素で、政府の方針、國民の才能とも大關係がある。

工業地方

現今工業の最も盛な地方は、その發達の條件を多く具へてゐる西ヨーロッパと、北米の大湖地方とで、世界の二大工業地帯であるが、近年白炭と呼ばれる水力利用の工業が、山地と急流に富む日本・イタリヤ等に盛である。

工業物

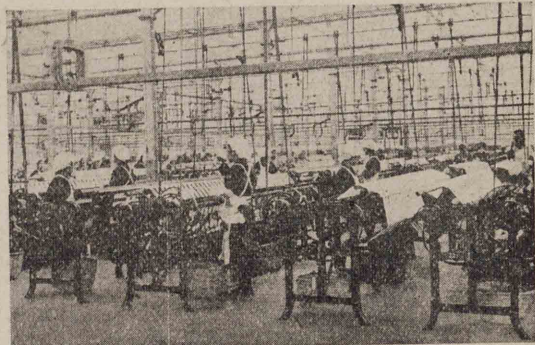
工業は原料の種類によつて、紡織工業・金屬工業・機械器具工業・化學工業・窯業・木工業・食糧品工業・印刷製本工業・瓦斯電氣工業等に分れ、生産物の種類は甚だ多い。

我が國の工業

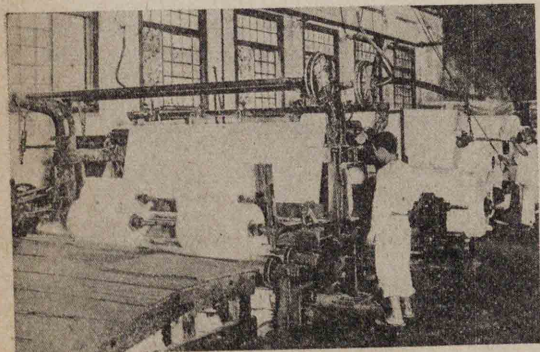
我が國民は、古來手工に長じ、又早く大陸文化に



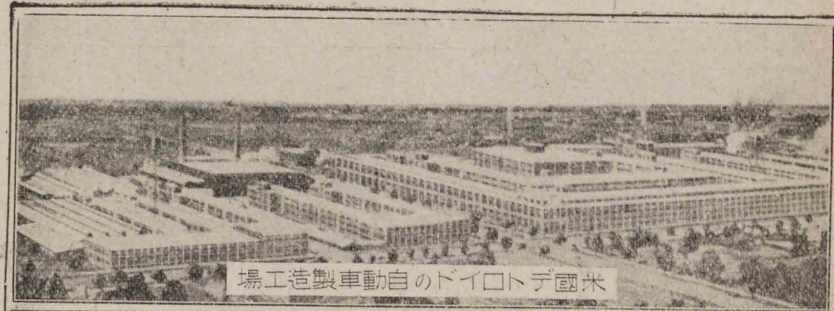
機械工業(船舶車軸機械等)化學工業(紙染料藥品等)窯業(セメント硝子陶磁器等)食料品工業(砂糖小麥粉籮詰等)等も著しく進歩して世界の工業國となり、その主要工業地域は、北九州から瀬戸内海伊勢海駿河灣の沿岸を經



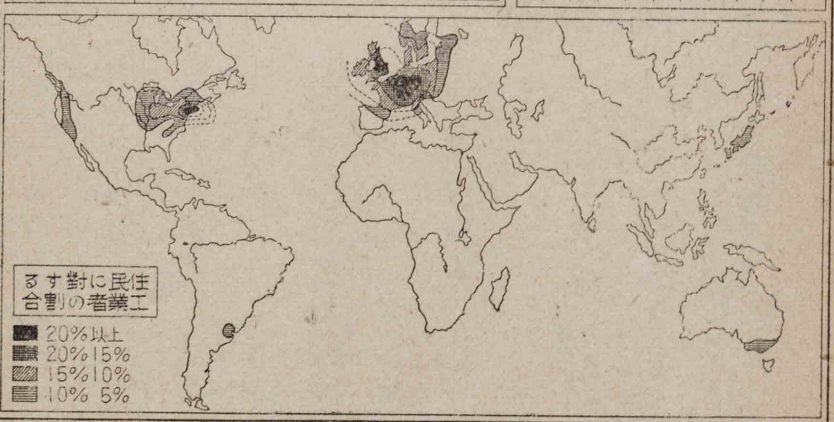
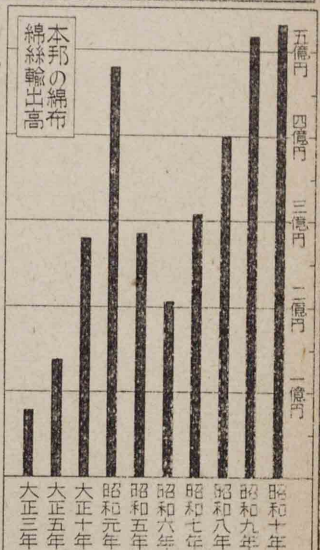
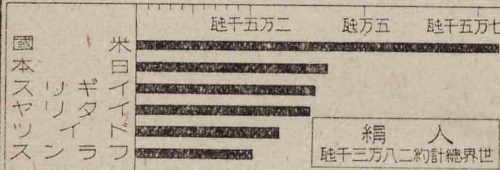
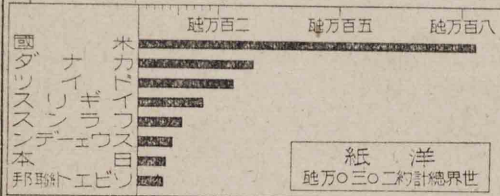
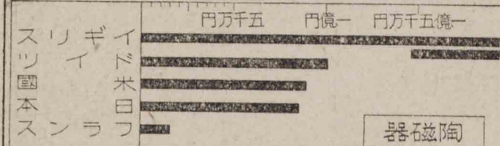
今接して、美術的工藝を特技としてゐるが、機械文明の傳來によつて、近年工業界に革新が行はれ、著しい發達を遂げた。我が工業の特色は紡織工業で、殊に綿製品は世界の王座を占め、人絹製品は米國と共に世界の雙壁となり、毛織物は新進の勢を示し、絹織は古來の妙技である。その他製鐵業



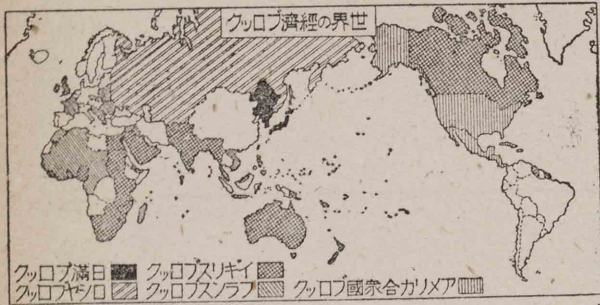
製紙後に轉印刷用捲直す作業場



米國ドイツの自動車製造工場







を順貿易といひ、輸入額の多い場合を逆貿易といふ。又輸入品を自國で消費することなく、他に輸出するのを通過貿易(伸繼貿易)といふ。自國の産業を保護する爲に、輸入品に關稅を課する場合を保護貿易といひ、之に反し、保護の必要のない場合又は通過貿易のみが盛な時は、關稅を課しないのを原則とする、之を自由貿易といふ。近年各國とも經濟上の見地から、強硬に自國の産業を保護し、關稅の率を高めて、輸入の防遏に全力を傾けてゐる。

**經濟ブロック** 列國の自給主義は、その屬領又は他國と協定して、經濟ブロックを見るに至つた。イギリス、米國、ソ聯邦、フランス等は、その強力なもので、我が國も滿洲國及び新興の支那と提携して、日滿支經濟ブロックを形成した。斯くして自給主義は、一國といふ單位から範圍を擴げて、一團の經濟聯合となり、このブロック内では自由貿易主義により、他に對しては保護貿易主義を採るのが常である。又一國から特に輸入の多い場合は、

て、東京灣岸に至る地區で、此處に四大工業地帯が發達し、臺灣には製糖、樺太、北海道には製材、パルプの工業が盛である。

### 第七節 商業

附 觀光業

**商業の發達** 商業の始めは物々交換であるが、貨幣の使用によつて、商品の移動が漸く活潑となり、その取引が定期市の形で行はれる。今でもアジア及び東部ヨーロッパ等にはこの風が残つてゐる。商品移動の範圍も、最初は極めて狭いが、交通の發達と共に、次第に廣くなつて全國に及び、遂には世界全體にまで擴張される。斯くて、内國商業と外國商業(貿易)との區別を生じた。

**貿易** 輸出額が輸入額よりも多い場合

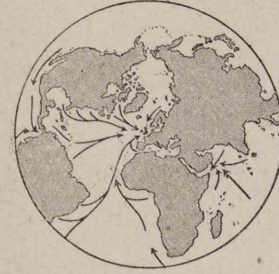


大邱の市で白衣の人の道路を埋める



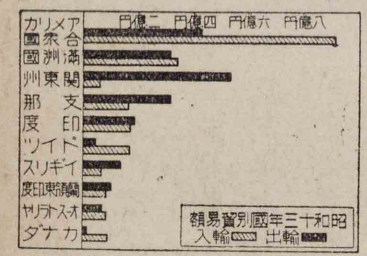
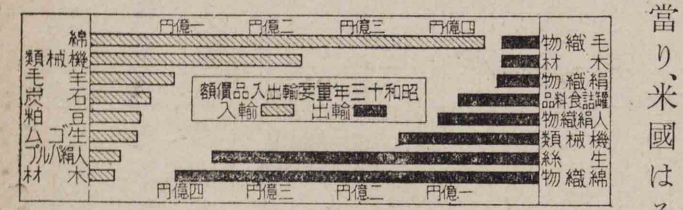
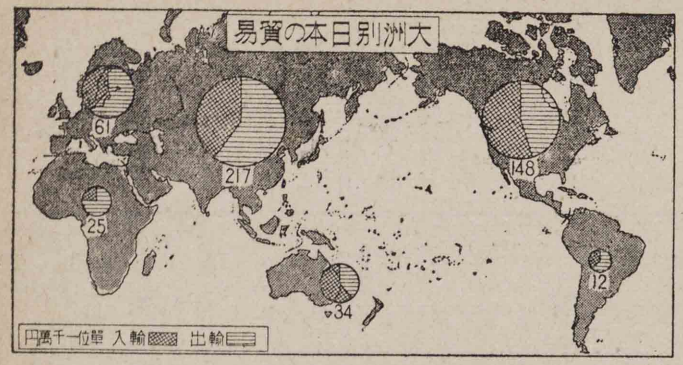
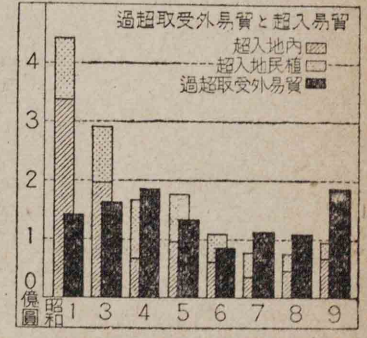
昔の貿易は  
珍寶・什器・香  
料等の贅澤  
品を主とし  
たが今は食  
料品・原料品  
を主とする

その額と略同額の輸出をなし、出入を相殺せんとすることがある、之をバーター主義といひ、世界の貿易上に高唱されてゐる。  
**貿易外收支** 國際間には、貿易勘定の外に、外債の利子・海外投資の損益・運賃・保険料その他の受拂がある、之を貿易外收支といひ、その出入超と貿易額の出入超とを相殺したものが、眞の國際收支となるのである。人口の多い文明國では、貿易は概ね入超であるが、貿易外の収入が多い爲、兩者の決濟が容易に行はれ、中には剩餘を生じてゐる國さへある。



位置のシリギイ

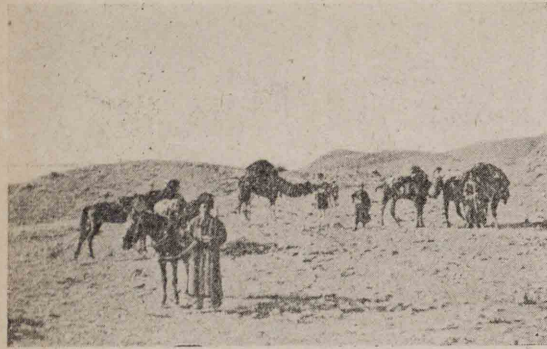
**世界の貿易** 貿易の最も盛なのは歐洲で、世界總額の五割餘を占め、中でも英國は、天與の好位置と、盛大な工業の發達と、廣大な植民地と、偉大な商船隊の活動とにより、貿易額は世界第一



に位し、ドイツ・フランス・スイタリヤ等も之に次いで盛である。オランダ・ベルギーは小國であるが、中歐への關門に當る爲、通過貿易は甚だ盛である。歐洲に次いで盛大なのは北米で、世界總額の約二割に當り、米國はその大部分を占め、豊富な資源と、工業の大發展とにより、英國と覇を競うてゐる。歐洲諸國の貿易は、概ね原料品・食糧品を輸入し、加工品を輸出するが、その他の諸洲は多く、原料品・食料品を輸出し、加工品を輸入する。

**我が國の貿易** 明治元年の我が貿易額は、僅に二千六百萬圓に過ぎなかつたが、日清戰爭當時は二億圓級、日露戰爭當時は八億圓級、世界大戰中には一躍して四十二億圓級に上り、昭





隊商が泉水地から泉水地へと通る分道

道 未開地の通路は、所謂踏分道で、隊商路もその一種であるが、文化地では、舗装した加工路が修築される。道路は鐵道の發達により、一時その價值を減したが、

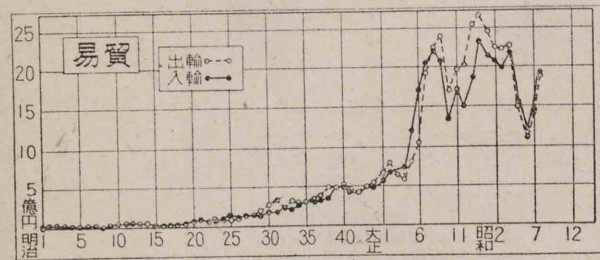
### 第七章 交通 第一節 陸 運

斯る處には、宿舍交通案内等の所謂觀光業が發達し、國家の重要な一財源たることがある。又交通が發達すれば、遠き高山深谷の風景も、短時間で容易に觀賞し得られるから、邊陲の地に國立公園の設定を見ることがある。



日本代表風景の一(華嚴瀧)

昭和十四年の貿易額は生絲が輸出の筆頭で約五億圓に及ぶ



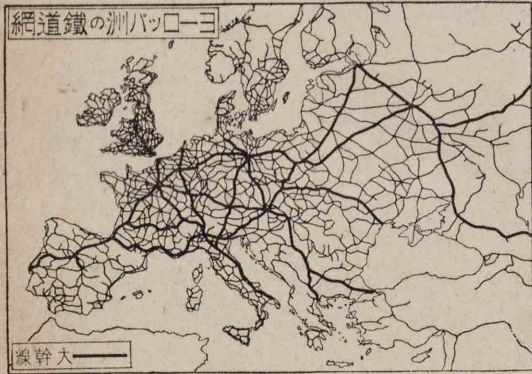
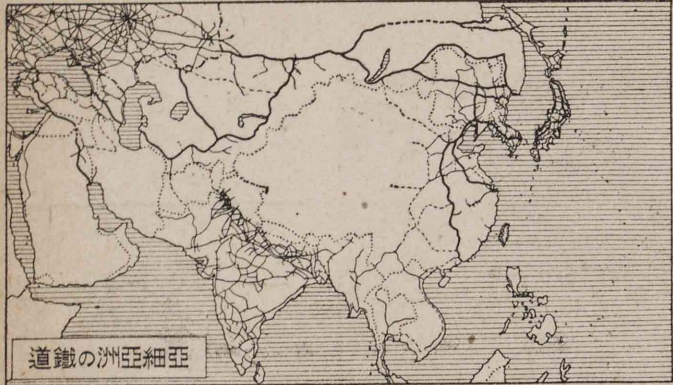
和十二年には約七十億圓に達して空前の額を示し、新市場を世界の各地に開拓してゐる。

我が貿易品と取引先 我が國の貿易は、工業の大發展により、原料の輸入、製品の輸出が共に激増し、輸出品は約四億圓の綿織物を筆頭とし、生絲、人絹、機械類、罐詰食料品、絹織物、メリヤス等が之に次ぎ、輸入品は約四億五千萬圓の綿を第一とし、羊毛、石油、鐵、生ゴム等が之に次ぐ。

取引先は米國の十九億圓を第一とし、印度、滿洲國、蘭領東印度、支那、英國、濠洲、獨逸、カナダ等との間に盛に行はれ、取引は大小五十餘の貿易港で行はれるが、その中、神戸、橫濱、大阪の三港が、全貿易額の八割餘を占める。

觀光業 スイスや日本の如き、風光の明媚な地方には、觀光靜養の爲に内外の旅客が多く集まる。



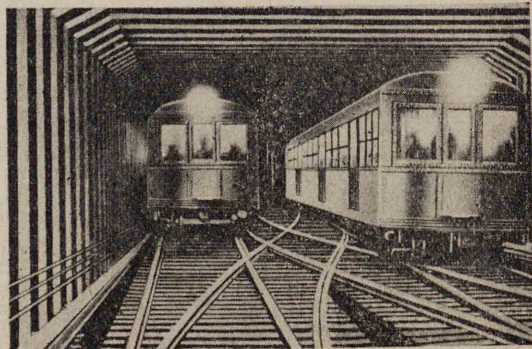


鐵道には鋼索鐵道、架空鐵道、地下鐵道等がある

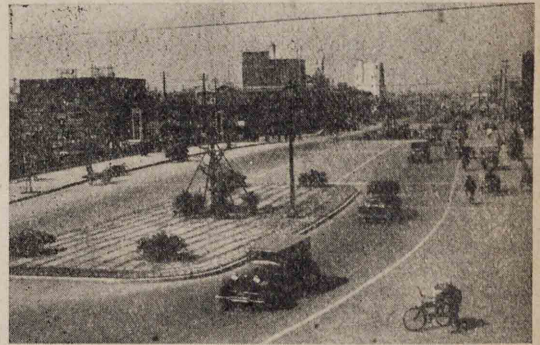
推測する一標準である。又自國所有の鐵道が、他國の領土内にある時は、國力發展の觸角として、大切なものである。

世界の鐵道 世界の列國中、米國は約四十二萬軒の鐵道を有して第一位を占め、ソ聯の八萬軒が之に次ぐ。我が國の鐵道延長は約三萬軒である。アジヤ洲では印度、日本、滿洲國支那に多く、世界的交通路として大切なのは、シベリヤ鐵道と、バグダード鐵道である。ヨーロッパは世界全線の三割餘を占め、延長は北米に劣るも、密度は

第一位を占め、ソ聯の八萬軒が之に次ぐ。我が國の鐵道延長は約三萬軒である。アジヤ洲では印度、日本、滿洲國支那に多く、世界的交通路として大切なのは、シベリヤ鐵道と、バグダード鐵道である。ヨーロッパは世界全線の三割餘を占め、延長は北米に劣るも、密度は



東京地下鐵道の断面を市ど殆で道鐵下地の京東

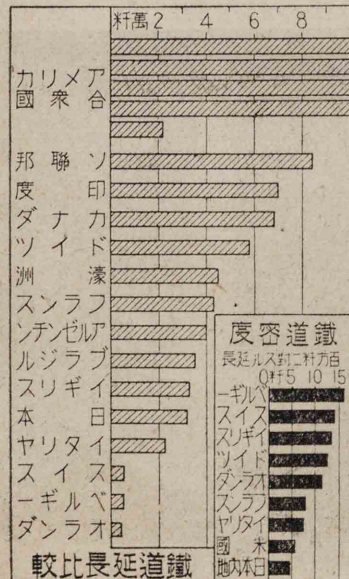
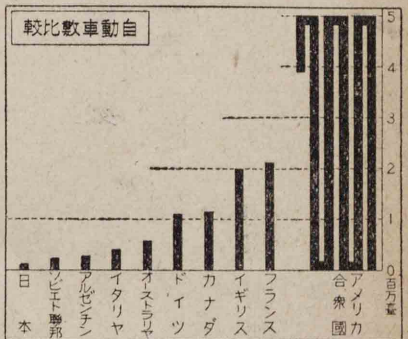


觀美の通和昭の京東るせ備完の裝鋪

國も近年著しくその數を増し、約十五萬臺に達した。鐵道 鐵道は政治上、經濟上及び軍事上等に密接な關係があり、その發達は、文化の程度を

め、我が

數の約七割(二千五百萬臺)を有して王座を占

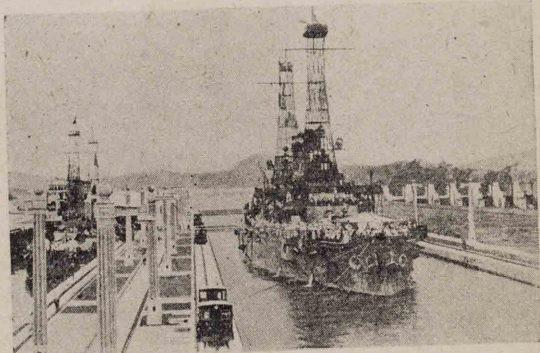


自動車の普及と共に重要性を復活し、都市は勿論、山間僻邑までも、完備した道路が見られるやうになつた。自動車利用の最も盛なのは米國で、世界總

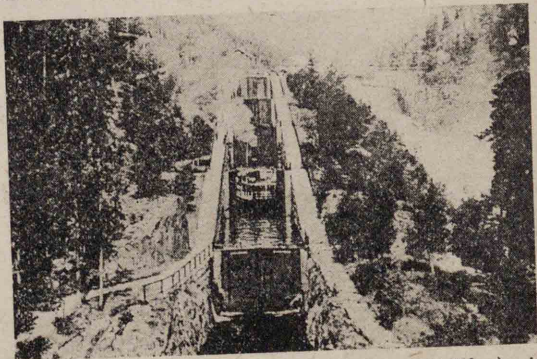


等を連ねる連絡運河と、急流瀑布等を避ける回避運河とある。連絡運河は船舶の迂回を減じ、距離を短縮する爲で、スエズ・パナマの兩運河は、その最も著しいものである。前者はリバプール・ボンベイ間に於いて、約四七〇〇哩、後者はニューヨーク・サンフランシスコ間に於いて、約八三〇〇哩を短縮した。

**船舶** 船は最初、人力で動かしたが、稍、進んで風力による帆船が使用せられ、蒸氣機關の發明によりて、巨大な汽船が建造されるやうになつた。汽船の動力には専ら石炭を用ひてゐたが、今は重油又

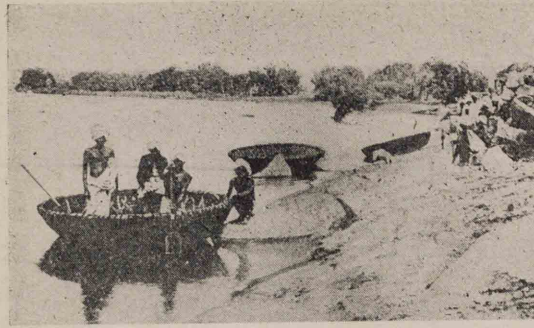


近附門閘ンツガるけ於に河運マナバ



河運避回のーエウルノるあの門閘く多

原始的な舟は今でも處々に使用されてゐる



葉の子椰棗ぶ浮に河スダンイは<sup>上</sup>舟木丸の方地洋南は<sup>下</sup>舟籠たつ作

第二節 水 運

**水路** 水路には河湖運河海洋等がある。水の浮力を利用して、物を運ぶことは、早くから行はれたが、風波の脅威があるのので、最初は専ら河湖海岸のみに限られ、次第に海洋に及ぶやうになつた。

運河は人工的の河川で、河湖海洋

遙に大で、ロンドン・パリ・ベルリン等はその大集點である。アルプ山脈には、大隧道により横斷する鐵道が多い。アフリカ洲ではカイロ・ケープタウン鐵道の工事が進み、北アメリカ洲は全線の四割餘を有し、特に米國の東半に鐵道網が密である。又數條の大體横斷鐵道もある。南アメリカ洲ではアンデス横斷鐵道が異彩を放ち、濠洲では東西横斷鐵道が完成した。





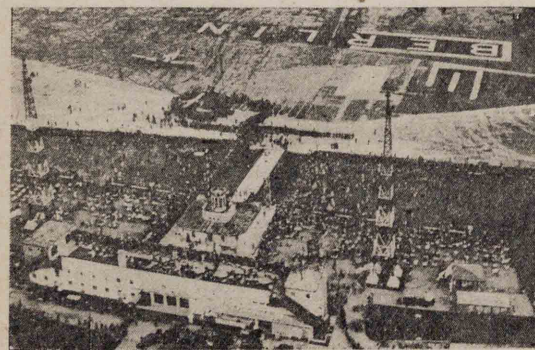
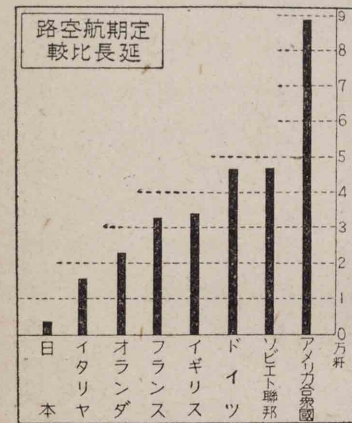


航空機は古  
い時代は軽  
気球であつ  
たが後に飛  
行機飛行船  
が出現し特  
に世界大戦  
の結果飛行  
機が長足の  
進歩をなし  
軍事上の作  
戦を一變せ  
しめるに至  
つた

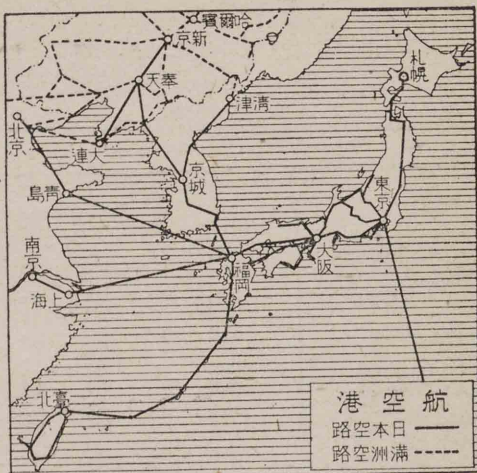
### 第三節 空 運

航空路 空路は陸路や水路と異なり、水平にも垂直にも航行し得られ、且二點間の最短距離を快速に飛ぶことが出来て甚だ便利であるが、天候に支配されることが多く、刻々の通報を受ける爲に、航空無線電信局を設け、夜間航空の爲に航空燈臺を備へ、又不時障害の爲に中間着陸場の必要もある。されど輸送量が小であるから、今日の航空は、尙郵便物と旅客の輸送とに限られてゐる。

航空港 飛行機の發着場を航空



いよる頗が設施で港空航のンリルベ



達するには、何れも約十時間を要する。

### 第四節 通 信

郵便 我が國は、明治四年に始めて東京、京都、大阪間に郵便制度を實施し、明治十年に萬國聯合郵便條約に加盟し、その後普及



席客るけ於に部内の機行飛客旅が我

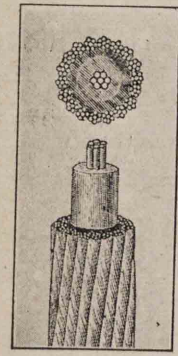
港といふ、飛行場、地上標識、無線電信局、格納庫、修繕工場等を備へてゐるのが普通であるが、國際的の大航空港には、税關・ホテル等の設備さへある。

我が國の航空路 我が航空路は、北海道、本州、臺灣を連ねて列島を縦貫し、又朝鮮、關東州に至るものは、滿洲國及び支那の空路に連絡する。飛行機で東京から新京、天津、臺北等に

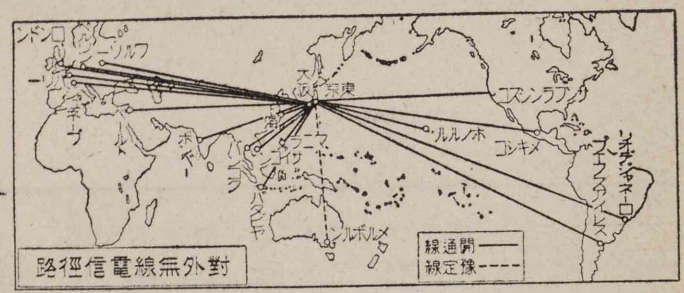
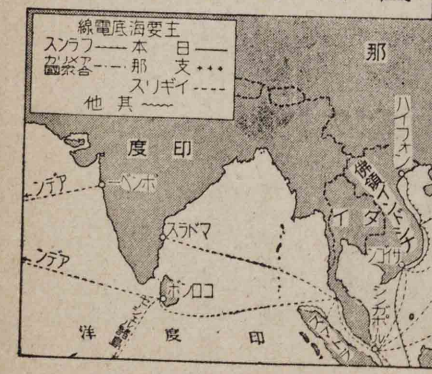
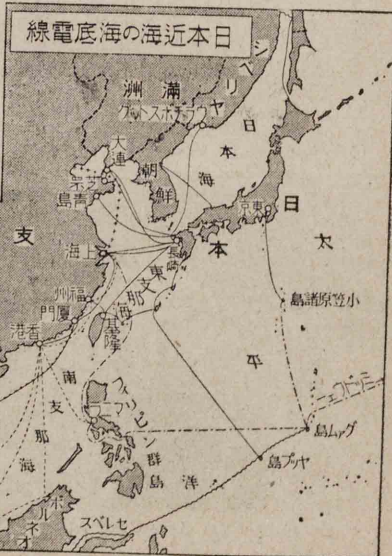


と制度の完備は、世界に類がない。近年航空郵便も実施された。

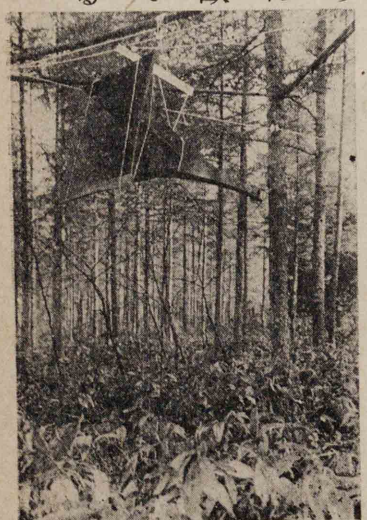
電信 明治二年に始めて東京横濱間に電信を通じ、明治十二年に萬國電信條約に加盟し、今は海上の孤島も、電信の通じない處は殆どない。電信には有線と無線とあり、有線は陸上線と海底線とに分れる。海底電信の利用は、無線電信の發明によつて激減したが、無線電信は船舶飛行機列車等の移動



海底電信の利用は著しく盛となり、我が國も顯著な面斷と線電底海物にも装置されて、そ



米諸國の放送も、坐ながらにして聽かれ、益萬國比隣の感を深めるに至つた。



送放繼中の聲啼の鳥小

との通信が盛に行はれてゐる。電話 我が電話は、明治十年東京横濱間に通じたのが始で、三十二年には東京大阪間の長距離電話が開通し、今では全國到る處に普及してゐる。無線電話は各大陸間に行はれ、我が國でも滿洲國・フィピンより、遠く歐洲英獨等米國南米アルゼンチン・ウルグアイ等々の諸國と通話が開かれ、又近年テレビジョン(無線電視話)も行はれるやうになつた。ラヂオその他 ラヂオは、近年世界の各國によく普及し、我が國では、各地に放送局があつて、國內放送が盛に行はれる外、對外放送をもなし、且歐



## 第八章 政治

### 第一節 國家の組織

**國家の要素** 人は團體生活を營み、社會を形成してゐる。その團體が一定の土地を占め、主權の確立してゐるものを**國家**といふ。即ち**土地**・**人民**・**主權**は國家成立の三要素で、この要素の實質如何により、國家に強弱の別を生ずる。

**國體と政體** 國家は主權の所在によつて、**國體**を**君主國**と**民主國**とに分ける。前者は主權が一人の君主に屬し、後者は國民の全體に屬する。民主國では、國民が代表者を選んで之を元首とし、國政を總理させるから、**共和國**ともいふ。又主權運用の形式によつて、**政體**を**立憲政體**と**專制政體**とに分ける。前者は憲法を設けて爲政の大本を規定し、之によつて國家を統治し、後者は主權の行使を、全く君主の獨裁專斷に委するものである。此等はその歴史、國情等に

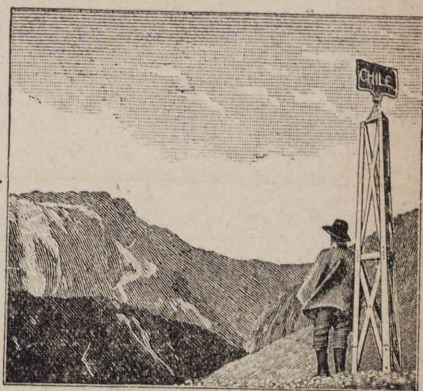
よつて定まるものであるが、文明の進歩に伴ひ、立憲政體を採つて廣く國民の意見を容れ、專制政體は殆どその跡を絶つやうになつた。又自治權のある數國或は數州が、集つて組織せる國家を**聯邦**又は**合衆國**といふ。我が國は萬世一系の天皇を戴く立憲君主國で、國體の尊嚴は世界無比である。

**國家と民族** 國家が單一の民族から形成されるのを**單族國**といひ、二民族以上から成るものを**複族國**といふ。單族國は統治上不便であるが、複族國は民族の融合上種々の困難がある。

### 第二節 國家の版圖

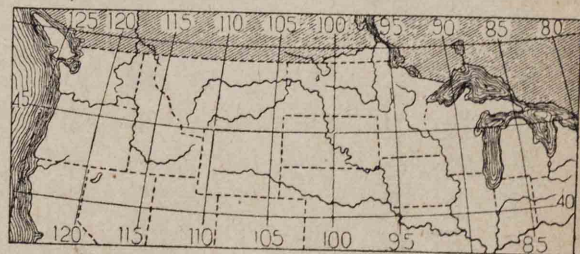
**國境** 國家の主權の及ぶ範圍をその國の**版圖**とし、之を限定する界線を**國境**といふ。國境は山脈、河湖、海岸線等の自然物によるのが普通であるが、適當の地物を缺く場合には、人爲の境界を設定することがある。人爲的境界は經緯線により、又は塹溝、土壘、林空、標柱





線と一致してゐる。

リチアとセルビアに等境を設けて、限界を明瞭にする  
ことが多し。我が鮮満の國境は  
自然的境界の例で、樺太の國境  
は人爲的境界の例である。世界  
大戰の後、民族國家の誕生を見  
るに至つたが、その國境は一層  
人爲的なもので、略、民族の分布

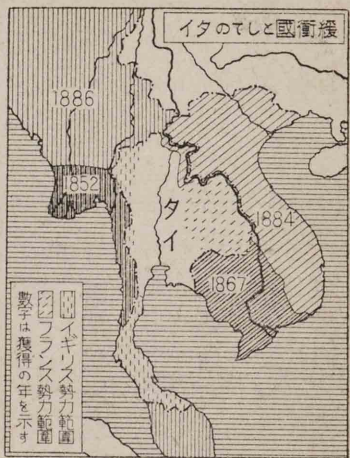


界州の國米たれらめ定てつよに線緯經



空林すなを界境の太樺

國境は國家の摩  
擦面とも呼ばれ、國  
際紛争の惹起し易  
い處であるから、兩



イギリス勢力範圍  
フランス勢力範圍  
數字は獲得の年を示す

國の間に中立地帯を設定し、或は緩衝國を設けるこ  
とがある。

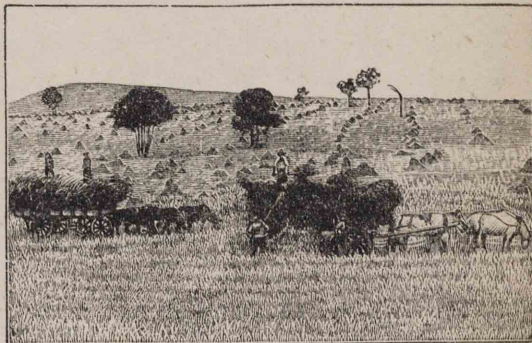
領海領空 海に面する國家では、その産業を保護

し、安寧を保つ等の必要から、一定の海面を、その國の  
領有とする、之を領海といふ。領海は干潮時の海岸か  
ら、三哩以内と看做すのを通則とする。領海は領土の  
延長であるから、我が國の如き海國では、海面上に於ける版圖が甚  
だ廣い。又近年航空術の發達につれて、領土の上空一切を領空と稱  
し、その國の許可がなくては、上空の航行が許されない。

植民地 國力が増進すれば、本國以外に土地を求め、過剰の勢力

を移す、之を植民地といふ。植民地には炭水の貯藏、無線電信局の設  
置、海底電線の中繼等を目的とする交通植民地もあるが、最も大切  
なのは、本國の移民を收容せしめる移住植民地と、資本を投下して  
生産の開發を目的とする投資植民地である。





オーストラリアに於ける移住植民地



西印度に於ける投資植民地(バナナ搬運)

植民地には、特殊の法律を設けて治めるものがある。之を政治上から類別すると、次の如く分れる。

自治領 カナダ・オース

トラリヤ・聯邦・南アフリ

カ・聯邦等の如く、文化が

發達して自治權を有し、

政治上、本國と對等な關係にある。

**直轄植民地** 住民の文化が、未だ自治を許すに至らない爲、本國政府で直轄してゐるもので、セーロンの如きは、その例である。

**保護地** 主權の一部又は全部を、宗主國に委任せるもので、佛國の安南、英國のオマーンに對する關係は、それである。

**租借地** 條約上、一定の期間を限り、他國の領土に統治權を行ふもので、事

實上は領土と違はない。廣州灣はその例である。

**勢力範圍** 一國が他の領土又はその一部を選んで利權を確定し、列國に宣言し、或は默認を得て、政治上、經濟上の特權を有する土地。

**委任統治** ドイツ・トルコ等の舊領土で、世界大戰の結果、本國から分離した土地を、國際聯盟管理の下に、他の國家に統治を委任した土地。

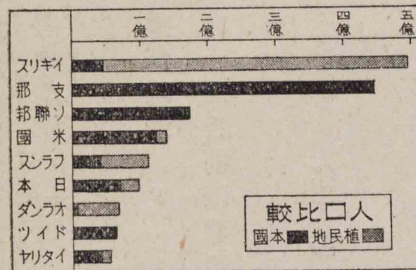
### 第三節 國 勢

**國力** 世界には六十餘の國家がある。大小強弱は極めて區々で、僅に獨立の名を保つに過ぎないものもあり、一國の言動が、世界の  
大勢を支配するものもある。總て國家は、人口の増加、版圖の増大、經  
濟の膨脹等により、絶えず成長せんとしてゐる。交通、軍事等の要地  
獲得は、即ち國家増大の前提で、之を國家の成長・尖端といふ。今日の  
列強は、次第に成長尖端を擴げ、勢力を膨脹し來つたもので、強大な  
國家は版圖も廣く、人口も多く、産業も進み、兵備も整ひ、財政も強固



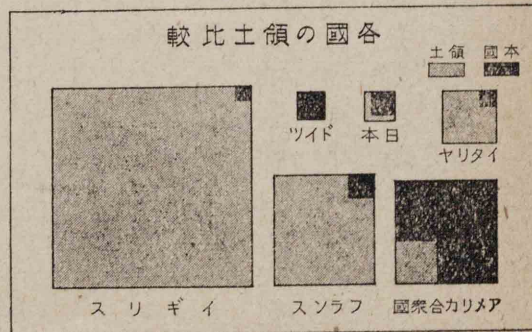
であることがその要素である。

版圖 世界の列強中、本國の著しく廣いのはソ聯邦支那ブラジルアメリカ合衆國等で、何れも我が國の十倍に餘り、植民地の特に廣いのは英佛の兩國で、イタリヤベルギーオランダ等が之に次ぐ。版圖の大小は、國勢と密接な關係を有するは勿論であるが、その廣狹と



國家の強弱とは、必しも一致するものではない。ブラジル支那等が、その例を示してゐる。

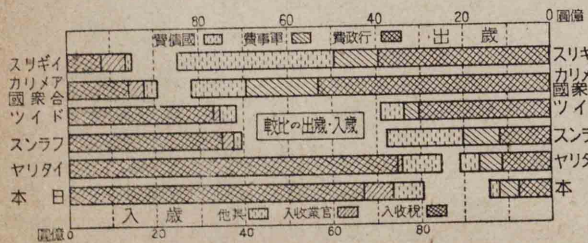
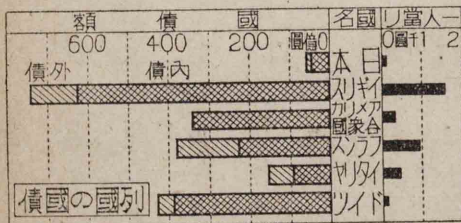
人口 國民の多少も、國家の勢力と緊密な關係を持つてゐるが、數よりも寧ろ質であり、特に國民的團結力が大切な問題である。我が國の人口は一億に近く、且他の人口の多い國家が、概ね



異民族の集合であるに反し、我が國民の大多數は、一家一族の關係を有する大和民族であることに、無限の強味がある。

財政 國家公共の經濟を財政といふ。國家の歳出は、國力の伸張と共に増加するのは當然であるが、如何なる部門に費途が多いかは、國情によつて異なる。歳出に應ずる歳入は、租稅、國營事業の益金等を以て充てるが、一時に多大の費用を要する場合には、國債を起すことがある。我が國は、近年各方面に大發展を遂げて、國費は年と共に膨大し、國債も頗る巨額に上つてゐる。國民は勵精勤勉、よくこの負擔に堪へる力を養はねばならない。

### 第四節 國際關係





**外交** 文明國の間には、條約を結んで外交官を交換する。外交官には大使・公使等があり、何れも外國に於けるその本國の代表者である。又通商關係の深い處には、領事（領事總領事を派遣して在外國民を保護し、通商の便宜を計つてゐる。斯くして各國は、互に親善和協に意を注いでゐるが、國際間の關係は、親善といひ協約といふも、畢竟自國の利益擁護を主とするもので、身を殺して仁を爲すべき個人的道義とは、著しく異なる點がある。東亞の新秩序建設に邁進する我が國は、歐洲に於いて略事情を同じうする獨伊の兩國と、互に東西に於ける指導的地位を認め、三國同盟を締結してゐる。

**國際聯盟** 前の世界大戰後、戰爭の防止、國際紛争の平和的解決及び人類共同の福祉を標榜して成立したもので、我が國はその創立當時から、重要な地位を占めてゐたが、滿洲國の獨立に對する意見の相違により、脱退の餘儀なきに至つた。畢竟歐洲に於ける舊體制の遺物で、その後脱退する國が續出し、殊に今次の歐洲戰亂で、全く有名無實のものとなつた。

**國防** 列國は互に平和を希望してゐるが、國家の利害が衝突すれば、最後の手段として、戰爭も避け難い場合が起る。軍備は敵國を降伏せしめる直接力であると共に、又相手國に戰爭を回避せしめる威力ともなる。軍備には陸軍、海軍、空軍等があり、各國情によつてその主力を異にするが、近年専ら空軍に力を注ぎ、又兵器の改良、發明に全力を傾け、軍備を機械化するやうになつた。



新鋭を競ふ近代兵器(ドイツの戰車隊)

我が國の陸海軍は、已に優秀を以て知られ、空軍の威力も世界を驚かしてゐるが、對岸の一部には、抗日の餘勢が尙残り、更にその間隙を窺ふ虎狼の輩も尠からざる今日、自國の權益を擁護し、若き滿洲國及び更生の支那政府を扶け、東亞の新秩序を建設する爲には、之に必要な軍備の充實は、極めて緊切な問題である。



**恵まれた位置** 我が國は、アジア大陸の東縁、太平洋の西北部に  
 位し、西は資源の多い滿洲國支那を控へ、北は水産林産鑛産に富む  
 シベリヤに接し、南はゴム、石油、羊毛等の豊富な蘭領東印度及び濠  
 洲に臨み、東は遙に物資の豊かな新大陸に對してゐる。

**太平洋** 太平洋は、日本の前面に擴がる世界最大の海面で、我が交通貿易  
 の發達を助けてゐるが、一朝、他國と事を構へた場合には、その攻撃を阻む  
 か、然らざるも攻撃力を著しく削減する防禦となり、平時に於いては我を  
 利し、戰時に於いては我を保護する天然の大溝である。

**幸福な島國** 我が國が永く島國であつたことは、著しい幸福を  
 齎してゐる。島は大陸の動亂に關係なく、文化を創造し、保有し、その  
 特質を永存する。我等の祖先は、此處を安住の樂土として、この風土  
 に親しみ、且憧れて來た。

**四季ある氣候** 我が本土は、溫和な溫帶季節風帶を占める。若し  
 南に偏すれば乾雨の二季となり、北に位置すれば寒溫の二季とな



和蘭用ひられ獨軍の落下傘

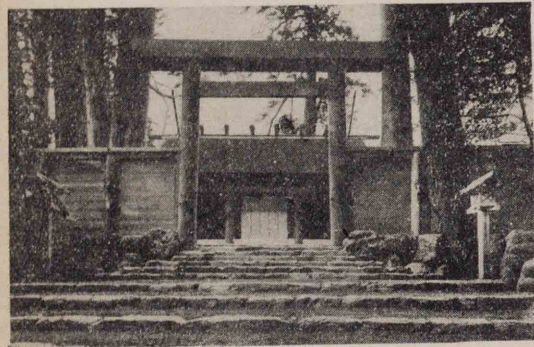
**戰爭** 戰爭は、民族又は國家の如き、人類  
 集團の間に於ける武力鬭争で、國民は生命  
 財産を犠牲として、努力の極致を盡し、生存  
 競争の最高表現である。従つて往々悲惨の  
 結果を招くことは、古來歴史の示す所で、そ  
 の防止策は屢講せられたが、却つて各國は、  
 戰備に汲々たる實情である。

一朝戰爭となれば、戰時統制の必要が起る、即ち工業を軍需化し、  
 又物資の需給を策する如き經濟統制と、精神を緊張せしめる思想  
 統制である。國民はこの物心兩方面の統制に服し、戰爭に勝つ爲に  
 は、如何なる負擔犠牲をも甘受する覺悟がなくてはならぬ。

## 第九章 世界に於ける我が國の地位

### 第一節 我が國土





我が國の精神(天和魂)は、忠君愛國を根本とする日本固有の民族性で、國初から存在した精神であり、現在日本人の持つ精神であり、將來持つべき精神であり、且必ず持たしめねばならぬ精神である。

**世界無比の國體** 我が大日本帝國は、萬世一系の天皇之を統治し給ひ、寶祚の隆頌、天壤と共に無窮である。建國以來、上に仁慈の皇室を戴き、下は國民が忠孝の念に篤く、

**發展性の國民** 我等の祖先は、この土に生れ、この土に育まれ、神代の昔から、既に米作、養蠶、織布等の術を傳へ、その後、儒教、佛教等の傳來もあり、下つて西洋文明の渡來もあつたが、よく之を醇化して獨特の日本文化を醸成し、國威は伸張し、國力は強大となり、今や新進の大強國として仰望されるに至つた。肇國以來數千年、一貫した



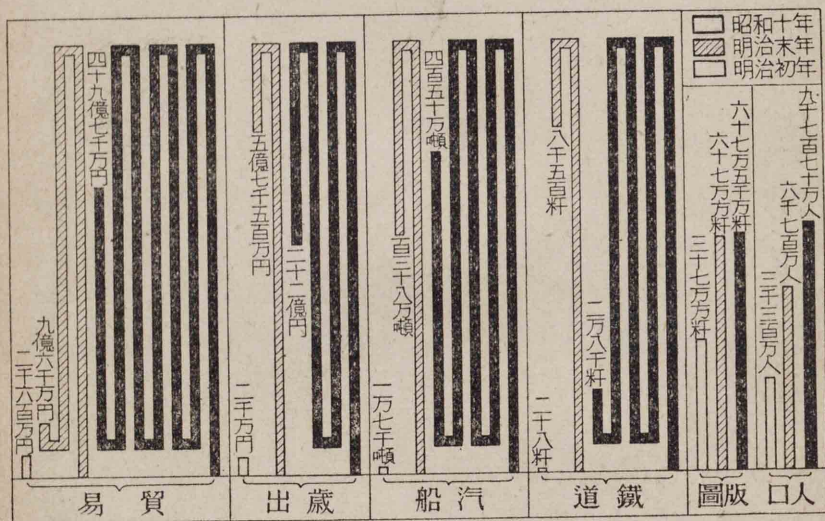
富士靈の別が明で、且沿岸には、北上する暖流と、南下する寒流とあつて、益、氣候を多様ならしめ、住民に好適の刺戟を與へる。

**美しい風景** 風光の明媚な我が國は、臚に匂ふ遠山の櫻の色にも、汀に茂る磯馴松の潮の香にも、風に戦ぐ尾花に見添へる富士の姿にも、垣の眞竹を曲げて積る雪の朝

にも、日本的な風趣が満喫される。日本風景の特徴は、火山性景觀と、海岸性景觀との合作で、之が四季折々の天候によつて情趣を變へ、その景觀が一層多彩となり、國土を擧げて世界稀に見る一大公園たらしめてゐる。

第二節 我が國民





竟は其等の結果で、近年支那事變を繞り、複雑な列強の動きは、大いに警戒の必要がある。

**國民の覺悟** 吾等は斯る四圍の情勢を洞察し、自重、自奮、徒らに外來思想に醉ふことなく、浮華輕佻に流るゝことなく、光輝ある國史の精華に鑑み、質實剛健の美風を養ひ、恐れず屈せず、政治上軍事上の激烈な壓迫に備へねばならぬ。今や南京には新國民政府が樹立され、歐洲に於ける舊體制は、將に壞滅に瀕せんとし、爲に東亞の事情も、著しく變化せんとしてゐる。

忠孝一本、家國一體、君臣の情は父子の如く、國を擧げて一大家族をなしてゐる。斯る君民一如の國家は、世界に求めて得べきでない。全く世界無比の國柄である。

### 第三節 我が發展

**日本の躍進** 世界の列強、殊に歐米諸國が、現在の盛大を來たしたのは、多大の年月を重ねた結果であるが、我が國の進歩發展したのは、明治以來僅々六十年來のことである。試に明治の初年と末年とを比べ、更に昭和の今日とを比較すると、その進歩の速かなことは世界に比類がない。殊に最近の顯著なる大躍進は、世界各國の驚異を招き、或は政治上から國力の伸張を妨げんとし、或は軍備上から勢力の進展を抑へんとし、或は經濟上から商品の進出を阻まんとして、畫策するものも少くない。我が國が國際聯盟を脱退することになつたのも、華府條約の廢棄を通告することになつたのも、畢



る。この千載一遇の秋に當り、國民は新體制の趣旨に順應し、億兆心を一にして、躍進途上にある祖國に、榮えある勝利を齎らさねばならぬ。

中 等  
最近地理概説 改訂版 終

改訂編概説

昭和十二年十月十九日 印刷  
昭和十二年十月二十五日 發行  
昭和十二年十一月五日 修正再版印刷  
昭和十三年一月十五日 修正再版印刷  
昭和十三年一月二十日 修正再版發行

※ 不 許 ※  
※ 中 近 最 ※  
※ 地 理 概 説 ※  
※ 定 價 八 拾 一 錢 ※  
※ 復 製 ※

停

著 作 者

三 省 堂 編 輯 所

發 行 者

東 京 市 神 田 區 神 保 町 一 丁 目 一 番 地  
株 式 會 社 三 省 堂  
代 表 者 龜 井 豐 治

印 刷 者

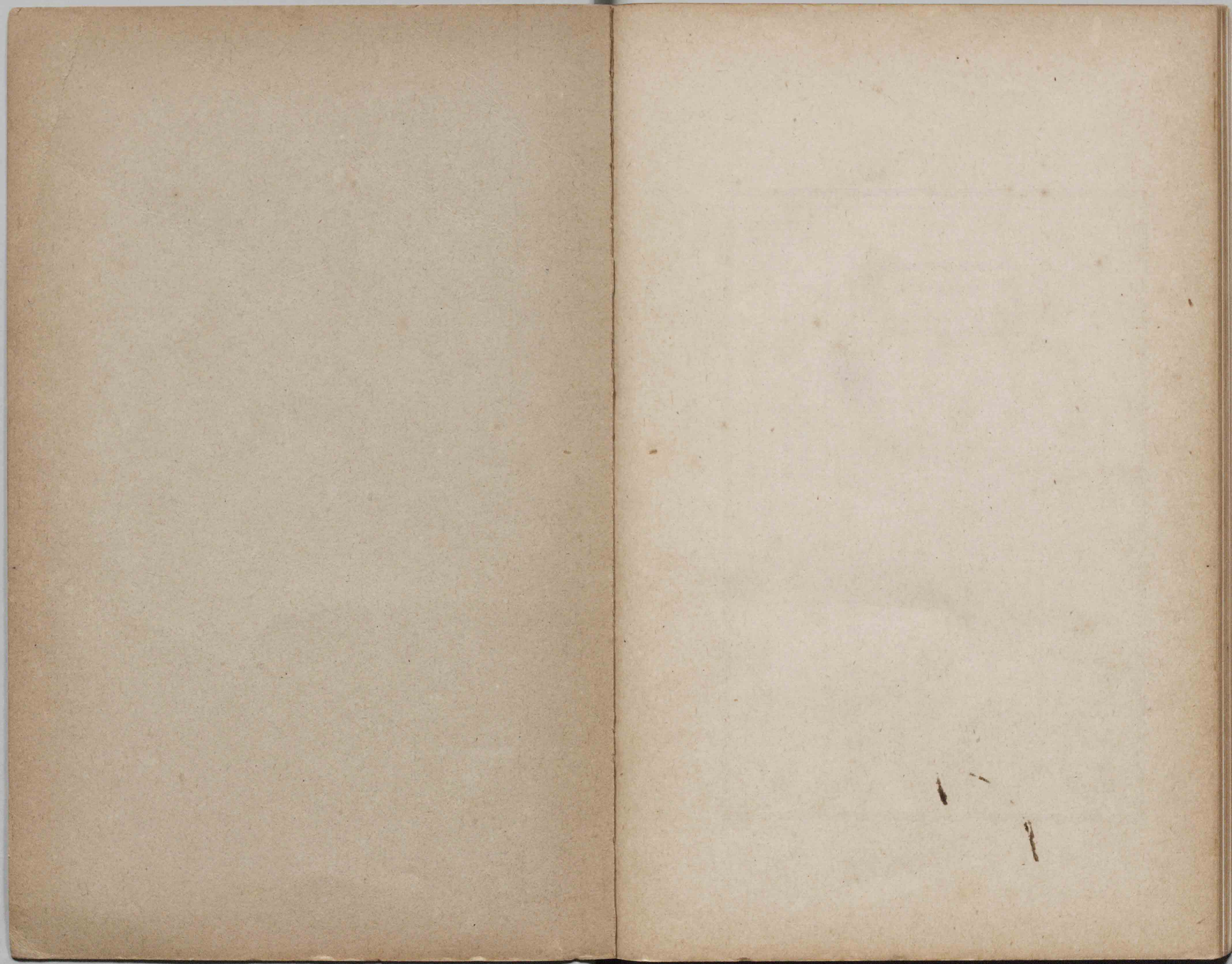
東 京 市 蒲 田 區 仲 六 郷 一 丁 目 五 番 地  
株 式 會 社 三 省 堂 蒲 田 工 場  
代 表 者 今 井 直 一

發 行 所

(東 京 市 神 田 區 神 保 町 一 丁 目 一 番 地)  
振 替 口 座 東 京 三 一 五 五 五  
(大 阪 市 西 區 阿 波 座 下 通 二 丁 六)

株 式 會 社 三 省 堂  
株 式 會 社 三 省 堂 大 阪 支 店







山口縣立岩國中學校

五年二組

齊

広島大学図書

2000045722



文庫

41

722